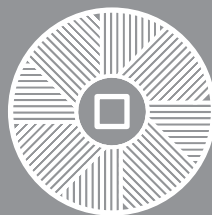
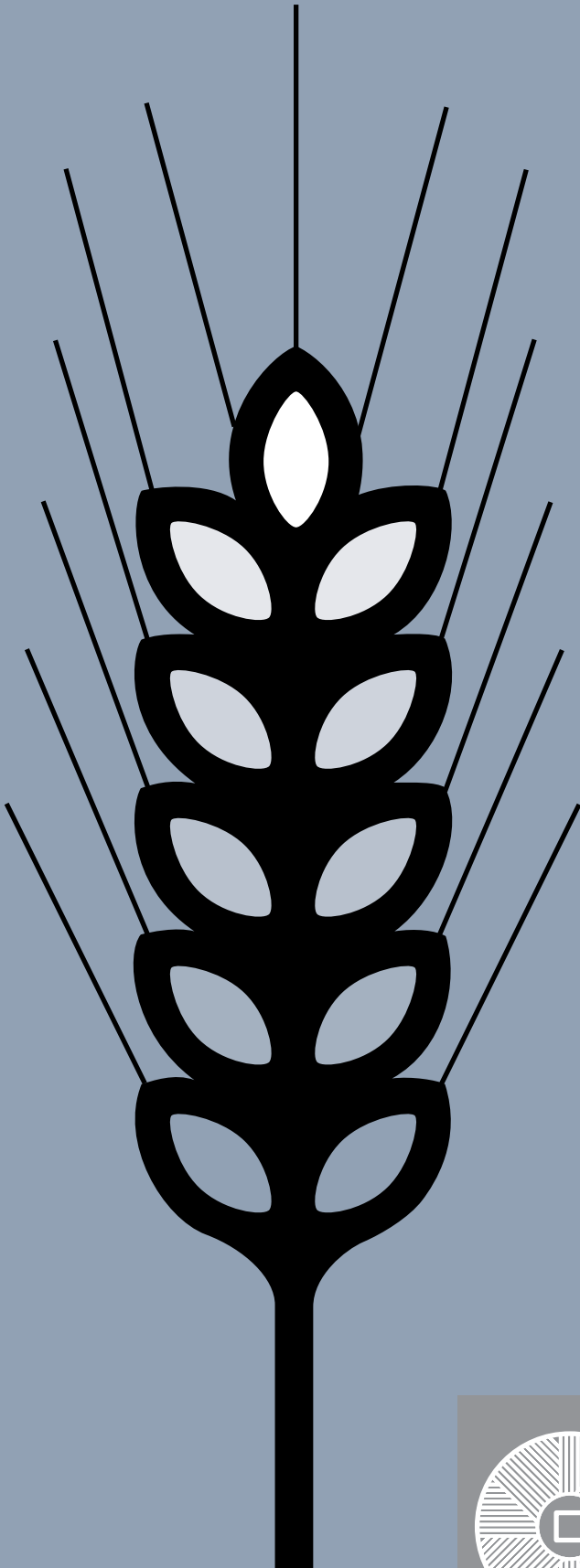


ISSN0913-8838

# 製粉 振興

2011  
No.538  
10



財団法人 製粉振興会

---

★目次

---

平成25年産に向けた民間流通麦の課題について …… 3

---

北海道小麦品種「きたほなみ」から  
暖地小麦品種への高製粉性の導入 …… 5

(独)農業・食品産業技術総合研究機構

九州沖縄農業研究センター小麦・大麦育種グループ長 藤田 雅也

---

製粉と小麦粉のお国ぶり —その16—

メ キ シ コ …… 11

財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾 精一

---

世界の粉界展望 …… 15

---

業界ニュース …… 13

国内資料 …… 30

編集後記 …… 39

---

# 平成25年産に向けた民間流通麦の課題について

平成24年産国内産小麦については、本年9月に2回の入札が終了し現在相対契約の締結に向けて準備が進められている。24年産入札の基準価格は23年産入札価格に第1回入札時点での輸入小麦の事後調整による変動率を乗じた価格とされたが、2回の入札の平均落札価格は、基準価格の100.6%消費税込みで58,340円／トンとなり、23年4月からの輸入小麦の政府売渡価格の5銘柄平均の消費税込み56,710円／トンと比べると約3%高い水準となった。即時販売方式導入以降、輸入小麦の銘柄別の売渡価格が公表されなくなったため、国内産小麦の主要な用途である日本めん用の小麦として品質比較されるASWの価格との対比は行えないものの、21年10月の輸入小麦の政府売渡価格改定以降続いている輸入小麦と国内産小麦の価格逆転現象は当面継続されることとなった。また、全26銘柄中、値幅制限の上限である+10%になった銘柄が第1回入札で8銘柄、第2回入札で13銘柄となるなど、事後調整の仕組みを導入してからも国内産小麦の価格変動の動きは激しいものとなっている。24年産民間流通麦の仕組みの決定に際しては、東日本大震災による影響等を踏まえて、概ね23年産と同様とされたが、今後25年産民間流通麦の仕組み検討が開始されるにあたって、考慮しておくことを3点整理したい。

1つ目は、23年産国内産小麦の仕組みにおいて導入された価格の事後調整の仕組みについて所期の目的がきちんと果たされているのか検証することである。事後調整の仕組みの適用について、23年産については、23年4月に加えて23年10月及び24年4月の輸入小麦の価格改定を反映させることとなっており、まだ対応は道半ばであることを改めて認識した上で、生産者と実需者の仕組みに対する評価が行われる必要がある。事後調整の仕組みは民間流通小麦の価格決定時期と輸入小麦の政府売渡価格決定時期の違いから生じる価格のアンバランスを解消することを目的として導入されたものであったが、一度価格が形成されると輸入小麦との価格比が固定されてしまうことを意味している。24年産の入札価格が輸入小麦価格を上回った事由として21年産、22年産の不作に続き、23年産においても供給量が減少するのではないかとの見通しから、実需者の国内産小麦に対する需給が逼迫していたことが挙げられる。しかし、仮りに24年産が著しい不作あるいは豊作となった場合には23年10月、24年4月、10月、25年4月と4回の事後調整を行っていく上で、価格、数量の両面での影響が生じることも懸念される。生産者と実需者はこうした現実を認識した上で、事後調整の仕組みについての定着に向けて努力をしていくことが重要である。また生産者は民間流通連絡協議会の場で確認した販売予定数量について改めて認識し努力することが大切である。

2つ目として、前述の論点も関連するが播種前契約における一定の幅(アローワンス)に対する考え方をもう一度整理することである。現在アローワンスは作柄変動が大きい麦の特性を踏まえて、天候要因に対する許容幅として現行 $\pm 15\%$ を基本に各地方連絡協議会において協議・決定するものとされている。24年産国内産小麦の販売予定数量は95万トンとなっている。前述のとおりここ数年間は不作となっているためこの問題に焦点があたっていないが、仮にこれがもしアローワンス上限の $+15\%$ で販売された場合の数量は約109万トンになる。この数字は23年3月に政府が決定した「麦の需給に関する見通し」に示された22年産国内産小麦の供給量53万トンと比べると倍以上の数量となる。製粉企業等の実需者にとっては短期間にこれほどの生産変動があった場合、とても当初の予定を超えて国内産小麦を単年度で使用していくことはできない。そのため作柄変動の観点からアローワンスを決めるのではなく、実需者が引き取りが可能な範囲という視点を加味してアローワンスの見直しが必要である。また、アローワンスの下限についても天候要因は生産者の責任に帰すことが適当でないと言われているが、この数年間連続した供給量減少の影響は大きく、この点も生産者と実需者が協議していく課題であると考ええる。

3つ目として、事後調整、アローワンス以外にも入札比率、申込み限度数量、入札回数、義務上場のルール、そして値幅制限など、必ずしも現行の仕組みが取引参加者が満足のいくような形とはなっておらず、生産者、実需者から様々な意見が出ている。こうした課題についてはもちろんよく協議をして、課題解決に向けて知恵を出し合っていくことが必要である。一方で民間流通の仕組みは既に10年以上が経過しており、関係者がその都度納得して現在に至っている。今後もその経緯をよく踏まえて、仕組みの変更を協議し、結果として国内産小麦の需要減退につながっていくことがないように、対処していくことも重要であると考ええる。

製粉産業は国内産小麦の最大の需要者であり、国内自給率向上に大きな貢献を果たしてきている。一方で、昨今世界各地での異常気象による小麦生産の不作、新興国の需要増加によって小麦調達が困難となる事態や価格が乱高下する事態も起きており、国内産小麦についても生産の安定性が求められている。また、国内産小麦は輸入小麦より一般的にばらつきが大きいなど品質面での評価が低いいため、品質の向上が求められている。生産者、実需者はこうした現状を改めて確認した上で、民間流通の仕組みの発展に向けて、双方が努力していくことが望まれる。

# 北海道小麦品種「きたほなみ」から 暖地小麦品種への高製粉性の導入

藤 田 雅 也

はじめに

小麦はわが国における自給率向上の重要な土地利用型作物として位置づけられて生産振興が行われており、食料・農業・農村基本計画(平成22年3月30日閣議決定)では、暖地等の二毛作の増加によって、小麦の作付けを飛躍的に拡大することが掲げられている。

その一方で、国産小麦の品質は輸入銘柄に比べて劣るとされ、製粉性(特に篩抜け)ではアメリカ産の軟質小麦の輸入銘柄ウェスタン・ホワイト(WW)や、オーストラリア産のめん用輸入銘柄オーストラリア・スタンダード・ホワイト(ASW)に比べて低く、民間流通が前提となる小麦では、生産拡大にあたって実需者から品質の向上が求められている。

このため、全国の小麦育成地では品質改善に向けた品種改良を精力的に進めてきたところである。その成果の一つとして、国産小麦の一大産地である北海道では、2006年に道立北見農業試験場によって、製粉性に極めて優れ、原粒灰分が低く、小麦粉の色相も良好で、やや低アミロースでめんの官能評価も高く、国産小麦として初めて輸入銘柄に匹敵する品質をもつ軟質のめん用小麦新品種「きたほなみ」(柳沢ら、2007)が育成され、本格的な普及がはじまっている。

一方、国産小麦の第二の産地である九州地域では、低アミロースでめんの食感に優れる「チクゴイズミ」が普及しているが、製粉性は従来からの普及品種である「農林61号」とほぼ同等で

ある(氏原ら、1995)。その後、製粉性や粉色が改善された「イワイノダイチ」(田谷ら、2003)などが育成されてきたが、輸入銘柄や「きたほなみ」と比べるとまだ品質的には及ばない(製粉協会技術委員会、2009)。

そこで暖地においても、飛躍的に製粉性などの品質をより改良した小麦品種を育成するため、国産小麦にはこれまでにない軟質で極めて製粉性が高い「きたほなみ」を遺伝資源として利用することが考えられる。しかしながら、暖地の小麦育種において北海道品種を利用する場合、「きたほなみ」が暖地ではかなり晩生で、また暖地品種とは比較的遠縁であるため(福永・稲垣1984)、交配した後代には様々なタイプの変異が出現して、梅雨のある暖地では必須条件である早生系統が得にくいなどの問題があり、これまでに北海道品種を利用して育成された暖地向け品種はない。

このため、特に軟質小麦における製粉性に注目して、従来より早く試験用小型製粉機を利用した中期世代からの選抜を行い、優れた品質形質の導入を試みた。

## 高製粉性の選抜

通常、九州沖縄農業研究センターの小麦品種育成は、主に派生系統育種法という方法で行っており、この場合、交配から4世代目のF4で早生短稈等で穂選抜を行い、F5世代の穂別系統で栽培性を中心に選抜し、さらに次世代のF6系統

に至って初めてブラベンダー製粉機で製粉特性などの品質特性の選抜にとりかかる。

しかしながら、「きたほなみ」を交配した後代では先に述べたように、晩生であるなど栽培性では不十分な系統が多く出現するため、通常通り栽培性で先に選抜を行ってしまうと、品質的に優れた系統が残らない可能性が大きい。そこでまず高品質な系統を得ることを目的に、通常であれば栽培性で約1割に絞り込むところを、栽培性の選抜には少々目をつぶって、8割弱の系統を収穫し品質検定を行うことにした。また、世代もF4系統と早い世代から品質検定を行うことで、早期に優れた品質の系統を得ることを狙った。

2007年度に、九州沖縄農業研究センター筑後拠点において、「北見81号(きたほなみ)」「チクゴイズミ」の後代で、熟期の変異が大きい中から早生短稈個体を選抜したF4系統219系統を栽培し、そのうち栽培性が著しく劣る系統を除いた172系統を収穫した。これらの系統について、試験用小型製粉機(クオードルマツジュニア型、ブラベンダー社)を用いて6XXの篩を使用して、製粉性の差が出やすいように、常法(農林水産技術会議事務局、1968)の製粉条件(フィード速度21g/分、14.0%テンパリング)よりフィード速度と加水量を高めて(フィード速度60g/分、14.5%テンパリング)製粉(1反復、供試量80g)を行った。2分割された粉受け引出しの早く篩抜けして落ちる区分(低灰分粉)がA粉、残りの区分がB粉とされており、製粉歩留(%)を $(A粉+B粉)/(A粉+B粉+ふすま) \times 100$ 、篩抜けの指標としてA粉割合(%) $(A粉/(A粉+B粉) \times 100)$ を計算した。これらの結果から、比較的製粉性の優れた系統を16系統を選抜した。

選抜した系統について、2008年度に栽培したF5系統を前年度と同条件で系統毎に製粉を行

い、さらに高製粉性の要因を検討するため、粒の硬さ(SKCS硬度、SKCS4100ターボ型、Perten社)、A粉の平均粒度(レーザー回折式粒子径分布測定装置、Sympatec HEROS(H1168)&RODOS、日本レーザー)、原粒灰分(AACC法 Basic Method、550°C 12時間燃焼)およびアラビノキシラン含量についても測定した。アラビノキシラン含量は、A粉をリケナーゼおよび $\beta$ -キシラーゼ処理後に抽出液をトリフルオロ酢酸で酸加水分解し、酵素法により2反復でアラビノース含量とキシロース含量を測定して算出した。

さらに、製粉性が良好と判断された系統「羽系W1318」と「羽系W1320」については、2009年度に生産力検定試験に供試し、栽培性を確認するとともに、収穫物についてはビュラー製粉機で製粉を行い、その製粉性を確認した。また、近畿中国四国農業研究センターにおいて、走査型電子顕微鏡(SEM、日立ハイテクS3400N)により、種子の横断面およびビュラーテストミルの小ふすまを観察した。

北海道小麦品種「きたほなみ」は、九州沖縄農業研究センター(福岡県筑後市)の圃場で栽培すると、晩生のために正常に登熟した材料を収穫することができないため、比較として北海道立北見農業試験場産の材料を使用した。

### 選抜系統の品質

まず、2007年度のF4世代172系統における製粉歩留の頻度分布(図1)は、最低値44.8%、最高値60.2%、平均値53.7%で、「チクゴイズミ」より製粉性が低い、あるいは「きたほなみ」より製粉性が高い系統がそれぞれ数系統あったが、ほとんどが両親の間におさまる単頂型の頻度分布を示した。この組合せでは1割弱の系統が「きたほなみ」並の製粉歩留を示すことが明らかとな

図1 「きたほなみ」/「チクゴイズミ」交配後代の製粉歩留の頻度分布

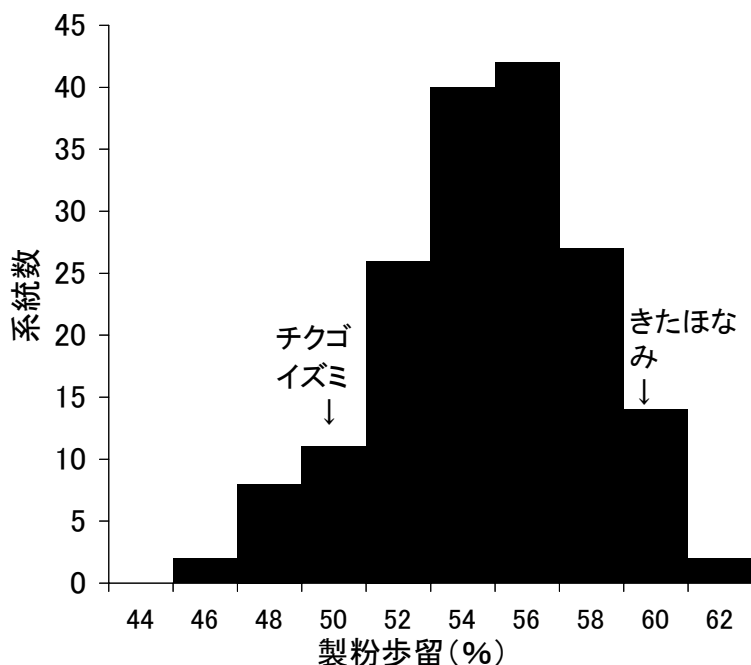


表1 選抜系統の製粉特性(系統栽培(九州農研2008年度))

品種・系統名	備考	製粉歩留 (%)	A粉割合 (%)	SKCS 硬度	A粉平均粒度 (μm)	A粉アラビノキシラン含量 (%)	原粒灰分 (%)
羽系W1318		59.0	81.5	40.2	48.7	0.81	1.58
羽系W1320		60.0	80.2	34.2	39.7	0.63	1.60
農林61号	標準	51.3	76.4	32.6	35.8	1.40	1.74
チクゴイズミ	比較(親)	49.3	76.1	28.7	29.2	1.26	1.54
きたほなみ	北見農試2008年産	58.2	78.3	37.5	34.1	0.71	1.38
WW	輸入銘柄	58.3	79.6	33.0	43.2	0.85	1.35
ASW	輸入銘柄	62.6	81.0	50.8	67.5	0.98	1.32

注) ブラベンダー小型テストミルによる製粉試験(フィード速度60g/分、14.5%テンパリング)A粉平均粒度は、Sympatec HEROS(H1168)&RODOS、日本レーザーにより測定。A粉アラビノキシラン含量は、酵素法により測定。

り、主にこれらの中から16系統を選抜した。

2008年度の選抜系統と標準、比較品種・銘柄の品質特性を表1に示した。製粉歩留は、標準の「農林61号」で51.3%、製粉性の低い親の「チクゴイズミ」が49.3%であるのに対して、製粉性の高い親の「きたほなみ」では58.2%、輸入銘柄「WW」では58.3%、「ASW」では62.6%と、7~13

%程度の差異が認められた。また、篩抜けのよさの指標となるA粉割合は、「農林61号」や「チクゴイズミ」で76%台であるのに対して、「きたほなみ」や輸入銘柄「WW」ではそれぞれ78.3%、79.6%、輸入銘柄「ASW」では81.0%と高かった。

選抜された2系統の「羽系W1318」と「羽系W1320」は、「きたほなみ」並の製粉歩留があり、

A粉割合も80%以上と高かった。これまで製粉歩留が低く、篩抜けが悪いことが暖地小麦品種の問題のひとつとされてきたが、「きたほなみ」を母本に利用することで、輸入銘柄「WW」に匹敵する飛躍的に製粉性が向上した系統が得られることが明らかとなった。

SKCS硬度は、硬質品種を含む輸入銘柄「ASW」では50を超えているが、それ以外は20~40程度と低く、選抜系統は軟質と判定された。また、一般に小麦粉の平均粒度は硬質小麦で大きく、粒度が大きいと製粉性もよい(Nagamine et al., 2003)。硬質小麦がブレンドされている輸入銘柄「ASW」は、小麦粉の平均粒度は $67.5\mu\text{m}$ と大きく、A粉割合も高かった。最近の育成品種の中には、硬質にすることで小麦粉の平均粒度を大きくし、製粉性を向上させためん用品種「あおばの恋」(乙部2009)や「ふくはるか」(石川2009)があるが、「きたほなみ」を遺伝資源として利用することで、軟質でも篩抜けがよく、製粉性を飛躍的に向上させた系統が得られることが明らかとなった。

A粉のアラビノキシラン含量は、製粉性の良い「きたほなみ」や輸入銘柄「WW」でそれぞれ0.71%、0.85%と低く、製粉性の悪い「農林61号」や「チクゴイズミ」ではそれぞれ1.40%、1.26%と高かった。加藤ら(2002)によれば、小麦の製粉歩留は、胚乳細胞壁成分の多糖類のひとつであるアラビノキシラン含量に強く支配されている。アラビノキシラン含量が少ないと、製粉時に細胞壁が壊れやすく、ふすま画分へ流れる大きな細胞の凝集塊ができにくいいため、製粉歩留が向上すると考えられる。また、西村ら(2008)は「きたほなみ」の系譜上の品種・系統を用いて、アラビノキシラン含量が低いことと、小麦粉の平均粒度が硬質小麦ほどではないがやや大きいことが、「きたほなみ」の製粉性が高い原因と推

察している。

本研究においてもアラビノキシラン含量と製粉歩留との相関係数は-0.567と有意な負の相関があり、「きたほなみ」を含めアラビノキシラン含量が0.85%以下の系統では、いずれも「きたほなみ」並の高い製粉性を示している(図2)。このことから、選抜系統の高製粉性の要因の一つとして、「きたほなみ」がもつ低アラビノキシラン形質が遺伝的に導入されたと考えられた。

また、池田ら(2008、近中四農研研究成果情報)は、走査型電子顕微鏡による観察により「きたほなみ」の種子の外皮と胚乳細胞壁が薄いことを明らかにしている。そこで、2009年度の選抜系統の収穫物についてビューラー製粉により高製粉性を確認し、走査型電子顕微鏡(SEM、日立ハイテックスS3400N)により、種子の横断面およびビューラーテストミルの小ふすまを観察した。

ビューラー製粉の歩留は「農林61号」「チクゴイズミ」が、それぞれ68.6%、70.6%であるのに対し、「WW」「きたほなみ」は74.4%、77.6%と高く、「羽系W1318」「羽系W1320」も75.1%、74.8%と「WW」並に製粉性が優れていた。ミリングスコアでも、同様の傾向がみられた。また、小ふすま割合は「農林61号」「チクゴイズミ」が、それぞれ9.0%、8.4%と多いのに対し、「WW」「きたほなみ」は6.1%、4.8%と低く、「羽系W1318」「羽系W1320」も、6.0%、6.6%と低かった(表2)。

SEMによる種子断面の観察により、製粉性の劣る「チクゴイズミ」は、外皮が厚く胚乳細胞壁もはっきりと観察された。一方、製粉性の優れる選抜系統は、「きたほなみ」と同様に種子の外皮と胚乳細胞壁が薄いことが確認された。また、小ふすまの観察では、「チクゴイズミ」は胚乳細胞壁に付着した胚乳細胞質の大きな断片が見られるが、製粉性の優れる選抜系統では、細



図2 小麦粉のアラビノキシラン含量と製粉歩留の関係

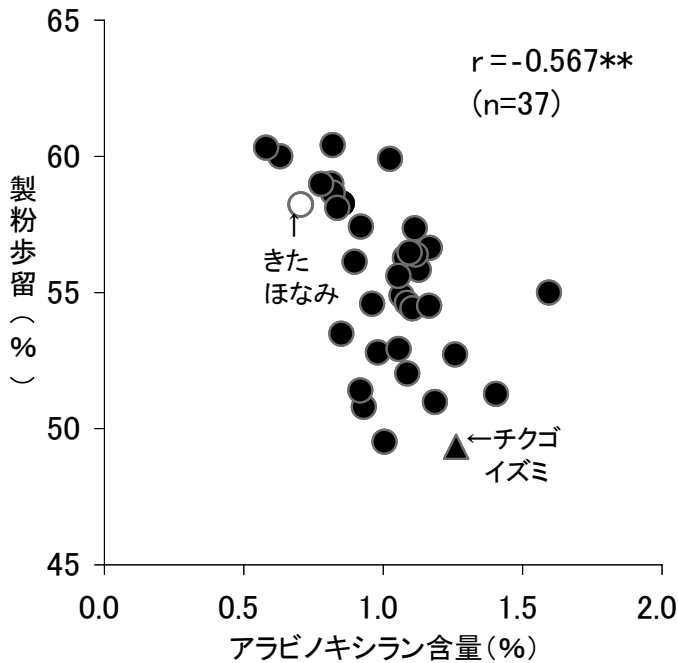


表2 ビューラーテストミル製粉成績

材料名		製粉歩留 (%)	ミリングスコア	大ふすま割合 (%)	小ふすま割合 (%)
WW	総合食料局より無償譲与	74.4	86.6	19.5	6.1
農林61号	2009年度生産力多肥栽培	68.6	78.8	22.3	9.0
チクゴイヅミ	2009年度生産力多肥栽培	70.6	82.9	21.0	8.4
きたほなみ	2009年度北見農試産	77.6	88.3	17.6	4.8
羽系W1318	2009年度生産力多肥栽培	75.1	86.4	18.9	6.0
羽系W1320	2009年度生産力多肥栽培	74.8	87.7	18.6	6.6

かく断片化された外皮などが多く観察された。以上から、「きたほなみ」の外皮と胚乳細胞壁が薄い形質が選抜系統にも導入され、ふるい抜けが良くて小ふすま割合が少なく、製粉性が優れると考えられた。

#### 今後の展開

以上のように、「きたほなみ」を遺伝資源として利用することで、暖地においても飛躍的に製粉性を高めた輸入小麦銘柄に匹敵する品質を持

つ系統が得られることが明らかとなった。これは、暖地における小麦育種において非常に朗報である。

栽培性については暖地において「きたほなみ」が晩生であることが、交配母本として使う場合に一番問題となると考えられる。九州沖縄農業研究センターでは「きたほなみ」の出穂期が4月29日と、「チクゴイヅミ」と比べて一ヶ月近く遅いの比へ、選抜系統は「農林61号」並に早生化され、収量性等も比較的改善されている(表

表3 選抜系統の栽培特性(2009年度生産力検定試験(九州農研))

品種・系統名	備考	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	収量 (kg/a)	収量比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)
羽系W1318		4.07	6.01	77	7.8	49.3	85	813	37.5
羽系W1320		4.07	5.31	82	7.7	58.8	101	815	39.8
農林61号	標準	4.08	5.31	94	8.8	58.1	100	807	35.8
チクゴイズミ	比較(親)	4.02	5.27	78	8.6	58.5	101	830	41.1
きたほなみ	系統栽培	(4.27)							

注)きたほなみの出穂期は、別圃場の系統栽培のデータ。

3)。しかしながら、耐倒伏性、穂発芽抵抗性、赤かび病抵抗性の点で、選抜系統には一部問題があることも分かってきており、これらの点で改良が必要である。

今後は、これらの選抜系統を交配母本として利用することで、暖地においても「きたほなみ」に近い高品質な軟質小麦品種が育成されることを確信している。

### 謝辞

製粉性の比較材料として「きたほなみ」は北海道立北見農業試験場から、輸輸入銘柄「ASW」「WW」は農林水産省総合食料局から提供いただいた。また、本研究の一部は、農研機構重点事項研究強化費「国産小麦需要拡大に関する研究」により行われた。

詳細は、藤田ら(2010、2011)をご覧ください。

緊急開発プロジェクト」農林水産省農林水産技術会議事務局：92-94

西村 努ら(2008) 育種・作物学会北海道談話会会報49：49-50

Nagamine T. et al. (2003) Journal of Cereal Science 37:337-342

農林水産技術会議事務局(1968) 研究成果第35集「小麦品質検定方法」

乙部千雅子(2009) 米麦改良2009年7月号：26-29

製粉協会技術委員会(2009) 国内産小麦新品种(銘柄)の品質評価－平成20年産－

田谷省三ら(2003) 九農研報告42：1-17

氏原和人ら(1995) 九農試報告28(3)：195-217

柳沢 朗ら(2007) 北海道立農試集報91：1-13

(独)農業・食品産業技術総合研究機構  
九州沖縄農業研究センター小麦・大麦育種グループ長

### 【引用文献】

藤田雅也ら(2010) 育種学研究12(4)：140-143

藤田雅也ら(2011) 育種学研究13(別1)：256

福永公平・稲垣正典(1984) 育種学雑誌35(1)：89-92

池田達哉ら(2008) 近畿中国四国農業研究センター研究成果情報

石川直幸(2009) 米麦改良2009年8月号：16-20

加藤常夫ら(2002) 研究成果第397集「麦新品种

## 製粉と小麦粉のお国ぶり

—その16—

# メ キ シ コ

### ★製粉用は国内産と輸入小麦がほぼ半々

小麦の総生産量は年に約400万トンで、第一主食であるトウモロコシの20%弱である。小麦は国土のほぼ全域で生産されるが、北部太平洋岸の4州、特にSonora州が主産地で、この4州の作付面積と収量はその他の地区より多く、ここで国全体の約半分を生産する。しかし、この地域では灌漑用の水不足が原因で作付面積が減少しているため、国全体の生産量が伸びない。

春播き性の硬質赤普通小麦が冬小麦として多く栽培されているが、単収が高いデュラム小麦品種が開発されたためにデュラム小麦の生産量が年々増えており、全小麦生産量の半分強の約220万トンになった。硬質赤普通小麦の生産では、品種改良と農業技術の改善によって作付面積の減少を単収増で補っている。品質的には改良の余地が大きく、セミハード的なものが多い。軟質小麦も生産される。

小麦の総需要量は年に約600万トンで、そのうち食用は約520万トンである。中米諸国の中で小麦を飼料用に使う唯一の国で、年に約20万トンの国内産小麦が飼料用に向けられる。年に約100万トンの小麦を輸出するが、そのほとんど(約80万トン)はデュラム小麦であり、バレーなどの中南米諸国とクスクスを食べるアフリカのリビアに向けられる。カーギル社は約70万トンのデュラム小麦を生産するSonora州の約3,000の農家と契約をして、輸出や国内需要に対応している。その結果、不足分として年に約340万トンの小麦を輸入するが、北米自由貿易協定(NAFTA)が

あるので、約3/4はアメリカから、残りをカナダから輸入している。アメリカからの小麦の約半分は鉄道で到着する。

デュラムセモリナやデュラム粉の製造には国内産のデュラム小麦を使う。普通小麦については、小麦主産地の工場では国内産小麦の使用比率が高いが、それ以外の地区では輸入小麦を主原料にして国内産を配合する。製粉会社や製パン会社は、アルベオグラフのW値とP/G比に基づくグルテンの強度によって小麦を5タイプに分けて考えており、使用目的に応じて使い分けをしている。製粉会社は国内産小麦を生産者団体や生産者から直接か、商社経由で購入する。その際、小麦のタイプによって価格差があるほか、容積重、水分含量、健全性、及びきょう雑物・異物の混入量によって価格調整が行われる。

### ★小麦粉消費量は漸増傾向

約1億1,000万人の第一主食はトウモロコシで、その多くはトルティーヤに加工され、1人当たり平均で年に80キログラムくらい食べている。都会ではトルティーヤを温める時間がない人が多くなり、タコスなどのファストフードに消費が動きかけている。第二の主食である小麦粉の消費量も多く、1人当たり平均の年間消費量は約30キログラムと推定される。ここ数年、小麦粉の生産量は漸増傾向にあり、年に290万トンを超えた。小麦粉の輸入も増加傾向で、2011/12年度には8万トンと予測される。

小麦粉にはパン用と菓子用があり、ほかにパ

スタ用のデュラムセモリナが市販されている。パン用粉のほとんどはストレート粉で、日本の2等粉に近い灰分量である。菓子用粉の中には灰分量が低めのショートパテント粉もある。小麦全粒粉も多く食べられている。

#### ★製粉会社は多いが、企業提携が進む

中米諸国中では製粉工場数が圧倒的に多い。1991年には133工場あり、年間の総挽砕能力は490万トンだったが、2010年には117工場に減った。全国小麦粉製造業協会があり、7つの地区にそれぞれの協会がある。

117工場のうちの19工場の能力は不明だが、能力が公表されている98工場のうち22工場は1日の挽砕能力が100トン未満の小規模である。100トン以上200トン未満の工場も30ある。300トン以上の大工場は25で、そのうち1000トン以上は3工場である。最大はメキシコシティにあるHarinera la Espiga社の工場で、これまでも能力拡張をたびたび行ってきたが、2009年にほぼ倍増の1,650トンになった。Puebla州PueblaにあるIndustrial Harinera la Asuncion社の工場が1,050トンで、2番目である。最大のトウモロコシ製粉会社のグルマ社とアメリカのADM社の合弁会社であるMolinera de Mexico社はDurango州に400トン工場、Estado de Mexico州に500トン工場を持つ。

大手の食品企業傘下の製粉工場も多く、会社間の提携もかなり進んでいる。人口が集中している首都圏(17工場)とEstado de Mexico州(12工場)に工場が多い。

#### ★多様な小麦粉食品がある

量ではトウモロコシに及ばないが、多様な小麦粉食品が食べられている。全国的にみると、タイプは異なるがパンの形で食べられているも

のが多い。土着民(マヤ族とアステカ族)とヨーロッパ(スペイン、フランス、及びイタリア系)からの移民の人種、食文化、及び習慣が共存すると共に混ざりあい、一方では、地方の貧しい農家の最低限の生活の糧としてと都市部の工業的発達に結びついた大規模商業作物としての小麦の普及によって、多様な小麦粉食品が生まれた。北部では小麦粉のトルティーヤも食べられている。

製パン産業は小さい家族経営のベーカリーから大規模な近代的製パン工場までさまざまである。小さいベーカリーの多くは田舎の町や村にある。小麦全粒ミールか小麦全粒粉を用いて、甘くて密な内相のパンを手づくりで製造する。砂糖の配合量が多いので、これらのパンは老化が遅く、数日間保存が可能である。

内相がやや密で、外皮が硬いのから軟らかいものまでのいろいろな種類の白パン(pan blanco)とイースト発酵生地で作るスイートブレッド(pan dulce)が多いが、都会では、小から大規模の半自動化ベーカリーがソフトパンズ、ハードロール、全粒ミールパン、外国由来のいろいろな種類の白パン、各種のスイートグッズ、クッキー、ペストリー、ケーキなども製造する。近代的な機械化製パン工場もいくつかあり、いろいろな種類のパン、クッキー、クラッカーなどを製造している。都会の消費者は、小売りのベーカリーからほぼ毎日パンを買う。

パスタの消費が伸びており、最近のデータはないが2002年の1人当たり平均の消費量は1.8キログラムだった。大小のパスタ工場があり、多種類のパスタとヌードルを製造しているが、輸入品も多い。中でも、アメリカとイタリアの製品が多く、フランス、グアテマラ、スペイン、中国、チリ、ドイツ、カナダからも来ている。(財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一)

# 業界ニュース

プレスリリース

平成 23 年 9 月 29 日  
(社)全国米麦改良協会

## 平成24年産民間流通麦に係る入札結果の概要(抜粋)

1 平成24年産民間流通麦に係る入札について、第1回を9月15日(木)及び第2回を9月27日(火)に実施した。

2 第1回及び第2回を合わせた入札結果の概要は、次のとおり。

(1) 小 麦

26産地別銘柄 250,980トンが上場され、

26産地別銘柄 245,320トンが落札された。

3 産地別銘柄別の落札決定状況は、別紙のとおり。

※ なお、落札残については、今後、相対取引される予定。

## 平成24年産 民間流通麦の入札における落札決定状況(麦種—小麦・地域区分—全地区)(公表)

(単位：円、トン)

産地	銘 柄	税込			税別(参考)				上場数量 (6)	申込数量 (7)	落札 数量	落札 残数量	申込 倍率 (7)÷(6)
		基準 価格 (1)	指標価格 (加重 平均)(2)	対比 (2)÷(1)	基準 価格 (3)	指標 価格 (4)	前年産 指標価格 (5)	前年産 対比 (4)÷(5)					
北海道	春よ恋	116,467	128,114	110.0%	110,921	122,013	93,604	130.4%	7,260	17,290	7,260	0	2.4
北海道	キタノカオリ	84,613	93,074	110.0%	80,584	88,642	68,003	130.4%	1,730	3,590	1,730	0	2.1
北海道	きたほなみ	57,332	56,548	98.6%	54,602	53,855	46,078	116.9%	177,360	208,240	175,120	2,240	1.2
北海道	ゆめちから	84,613	93,074	110.0%	80,584	88,642	—	—	1,070	7,330	1,070	0	6.9
宮 城	シラネコムギ	40,638	41,858	103.0%	38,703	39,865	32,661	122.1%	760	1,260	760	0	1.7
茨 城	農林61号	36,303	32,698	90.1%	34,574	31,141	29,176	106.7%	1,530	1,480	1,270	260	1.0
茨 城	さとのそら	36,303	32,752	90.2%	34,574	31,192	—	—	2,580	870	870	1,710	0.3
栃 木	農林61号	49,556	45,197	91.2%	47,196	43,045	39,828	108.1%	200	360	200	0	1.8
群 馬	つるびかり	49,036	48,364	98.6%	46,701	46,061	39,410	116.9%	1,620	2,690	1,620	0	1.7
群 馬	さぬの波	55,052	59,731	108.5%	52,430	56,887	44,245	128.6%	540	1,560	540	0	2.9
群 馬	さとのそら	56,021	52,417	93.6%	53,353	49,921	45,024	110.9%	5,670	5,050	5,050	620	0.9
埼 玉	農林61号	49,946	47,540	95.2%	47,568	45,276	40,142	112.8%	5,200	4,540	4,540	660	0.9
岐 阜	農林61号	43,620	47,982	110.0%	41,543	45,697	35,057	130.3%	1,210	3,780	1,210	0	3.1
岐 阜	イワノダイチ	41,388	45,526	110.0%	39,417	43,358	33,263	130.4%	1,060	3,460	1,060	0	3.3
愛 知	農林61号	48,971	53,867	110.0%	46,639	51,302	39,358	130.3%	2,600	7,300	2,600	0	2.8
愛 知	イワノダイチ	47,223	50,928	107.8%	44,974	48,503	37,953	127.8%	2,430	5,590	2,430	0	2.3
三 重	農林61号	45,071	49,562	110.0%	42,925	47,202	36,224	130.3%	1,170	2,830	1,170	0	2.4
滋 賀	農林61号	53,359	57,869	108.5%	50,818	55,113	42,884	128.5%	4,110	7,870	4,110	0	1.9
兵 庫	シロガネコムギ	50,753	47,613	93.8%	48,336	45,346	40,790	111.2%	870	880	810	60	1.0
香 川	さぬきの夢2000	61,762	66,793	108.1%	58,821	63,612	49,638	128.2%	1,040	1,690	1,040	0	1.6
福 岡	シロガネコムギ	53,813	54,314	100.9%	51,250	51,728	43,249	119.6%	7,880	10,450	7,880	0	1.3
福 岡	チクゴイズミ	60,865	65,699	107.9%	57,967	62,570	48,917	127.9%	6,430	11,420	6,430	0	1.8
福 岡	ミナミノカオリ	50,484	55,293	109.5%	48,080	52,660	40,574	129.8%	1,990	4,210	1,990	0	2.1
佐 賀	シロガネコムギ	47,623	50,093	105.2%	45,355	47,708	38,274	124.6%	8,500	13,420	8,390	110	1.6
佐 賀	チクゴイズミ	53,655	59,021	110.0%	51,100	56,210	43,122	130.4%	5,080	17,540	5,080	0	3.5
大 分	チクゴイズミ	51,693	56,862	110.0%	49,231	54,154	41,545	130.4%	1,090	4,130	1,090	0	3.8
—	合 計	57,966	58,340	100.6%	55,206	55,562	46,187	120.3%	250,980	348,830	245,320	5,660	1.4

(注) 1. 基準価格及び指標価格は円/1斗当たりの価格で、消費税(地方消費税を含む)相当額を含めた額である。なお、参考として、当該相当額を除いた額を掲載してある。

2. 建値条件は、ばら、1等、産地倉庫在姿である。

3. 基準価格及び指標価格の「合計」欄は、本年産の産地・銘柄毎の基準価格又は指標価格を落札数量で加重平均したものである。

4. 小麦の基準価格は、前年産の指標価格に当該年産の第1回入札時点での輸入麦の政府売渡価格の変動率(1.185)を乗じた価格である。

(参考)

平成24年産民間流通の入札における落札状況

(第1回) (単位：円、トン)

麦種	産地	銘柄	地域区分	落札加重平均価格
小麦	北海道	春よ恋	全地区	122,013
小麦	北海道	キタノカオリ	全地区	88,642
小麦	北海道	きたほなみ	全地区	55,767
小麦	北海道	ゆめちから	全地区	88,642
小麦	宮城	シラネコムギ	全地区	39,865
小麦	茨城	農林61号	全地区	31,155
小麦	茨城	さとのそら	全地区	31,290
小麦	栃木	農林61号	全地区	43,091
小麦	群馬	つるびかり	全地区	45,562
小麦	群馬	きぬの波	全地区	56,100
小麦	群馬	さとのそら	全地区	50,067
小麦	埼玉	農林61号	全地区	45,713
小麦	岐阜	農林61号	全地区	45,697
小麦	岐阜	イワイノダイチ	全地区	43,358
小麦	愛知	農林61号	全地区	51,302
小麦	愛知	イワイノダイチ	全地区	47,997
小麦	三重	農林61号	全地区	47,188
小麦	滋賀	農林61号	全地区	54,953
小麦	兵庫	シロガネコムギ	全地区	45,425
小麦	香川	さぬきの夢2000	全地区	62,521
小麦	福岡	シロガネコムギ	全地区	51,834
小麦	福岡	チクゴイズミ	全地区	61,380
小麦	福岡	ミナミノカオリ	全地区	52,435
小麦	佐賀	シロガネコムギ	全地区	47,182
小麦	佐賀	チクゴイズミ	全地区	56,210
小麦	大分	チクゴイズミ	全地区	54,154

(第2回) (単位：円、トン)

麦種	産地	銘柄	地域区分	落札加重平均価格
小麦	北海道	春よ恋	全地区	122,013
小麦	北海道	キタノカオリ	全地区	88,642
小麦	北海道	きたほなみ	全地区	51,893
小麦	北海道	ゆめちから	全地区	88,642
小麦	宮城	シラネコムギ	全地区	39,865
小麦	茨城	農林61号	全地区	31,127
小麦	茨城	さとのそら	全地区	31,132
小麦	栃木	農林61号	全地区	43,000
小麦	群馬	つるびかり	全地区	46,560
小麦	群馬	きぬの波	全地区	57,673
小麦	群馬	さとのそら	全地区	49,757
小麦	埼玉	農林61号	全地区	44,887
小麦	岐阜	農林61号	全地区	45,697
小麦	岐阜	イワイノダイチ	全地区	43,358
小麦	愛知	農林61号	全地区	51,302
小麦	愛知	イワイノダイチ	全地区	49,014
小麦	三重	農林61号	全地区	47,217
小麦	滋賀	農林61号	全地区	55,274
小麦	兵庫	シロガネコムギ	全地区	45,252
小麦	香川	さぬきの夢2000	全地区	64,703
小麦	福岡	シロガネコムギ	全地区	51,621
小麦	福岡	チクゴイズミ	全地区	63,763
小麦	福岡	ミナミノカオリ	全地区	52,888
小麦	佐賀	シロガネコムギ	全地区	48,236
小麦	佐賀	チクゴイズミ	全地区	56,210
小麦	大分	チクゴイズミ	全地区	54,154

(注) 1. 基準価格及び指標価格は円/1ト当たりの価格で、消費税相当額を除いた額である。

2. 建値条件は、ばら、1等、産地倉庫在姿である。

3. 各価格は本年産の産地・銘柄毎の落札数量で加重平均したものである。

4. 小麦の基準価格は、前年産指標価格×1.185



**世界 (1) 2011/12年度の小麦**  
は生産と消費が増え、期末在庫は  
前年度並み。

国際穀物理事会 (IGC) の世界と主要生産国の小麦需給を[表1]に、国別小麦生産量を[表2]に示した。2011/12年度は生産が前年度比2,780万トン増の6億7,890万トン、消費は6億7,880万トンで、期末在庫は前年度とほぼ同量である。食用消費は530万トン増の4億6,190万トン、飼料用は1億2,690万トン、工業用は2,100万トンで、貿易量は140万トン増の1億2,800万トンである。CIS3国を含む主要輸出国の合計期末在庫は180万トン減の6,750万トン、中国の在庫は少し増えて5,840万トン、インドは微減の1,510万トンである。生産量は、CIS3国が回復してほぼ前々年度の水準に戻るが、カナダは少し増えるもの前々年度より280万トン少ない。EUは安定しているが、アメリカは510万トン減の5,500万トンである。アルゼンチン、オーストラリア及びイランは高レベルだが、前年度を下回る。トルコは1,900万トンに増え、中国は微増の1億1,600万トン、インドは史上最高の8,590万トンである。  
(IGC-GMR・415/11)

**(2) 2011/12年度の小麦粉貿易量は前年度とほぼ同量の1,180万トン。**

IGC予測の小麦粉貿易量を[表3]に示した。2011/12年度は前年度とほぼ同量の1,180万トン

である。ウズベキスタンとアフガニスタンは引き続き多く輸入し、共に140万トンである。イラクが110万トン、ブラジルが95万トン、インドネシアが90万トン輸入する。輸出国では、カザフスタンが300万トン、トルコが260万トン、アルゼンチンが130万トンで高レベルの輸出を維持するが、EUは120万トンに減少する。

(IGC-GMR・414/11)



**アメリカ (1) ノースダコタ製**  
粉が2年連続で過去最高収益。

州営のNorth Dakota Mill & Elevatorの2011年度(6月30日締め)の利益は過去最高の1,610万ドルで、2010年度の1,320万ドルを22%上回った。67万トンの穀物を挽砕し、49.9万トンの製品を生産した。販売が好調で、出荷量の前年比6%増が収益増に貢献した。収益の52.5%は州の一般会計に、一部は農業燃料税基金に繰り入れられ、残りは工場の再投資に使う。

(World-Grain.com・August 24/11)

**(2) 小麦粉価格は下落傾向。**

2011年1月以降の小麦粉価格を[表4]に示した。公表価格はcwt当たりのばら貨車渡しだが、トン当たりに換算した。4~6月のピークから7月に少し下がり、8月に一部の種類で上昇したものの、再び下落傾向にある。

(MBN、FBN複数号/11)

**(3) 2011年8月の小麦生産者手取り価格はブッシュェル当たり7.56ドル。デュラム小麦が高値。**

合衆国農務省発表の全小麦平均生産者手取り価格を[表5]に示した。2011年8月は7.56ドル/ブッシュェルで、前月比46セントの上昇、前年同月比2.12ドルの大幅高である。冬小麦は7.26ドル(前月比49セント高、前年同月比1.79ドル高)、デ

デュラム小麦は11.00ドル(前月比80セント高、前年同月比6.55ドル高)、デュラム小麦を除く春小麦は8.02ドル(前月比39セント安、前年同月比2.55ドル高)である。

(World-Grain.com・September 2/11)



### インド 製粉業界は小麦輸出禁止解除を歓迎。

ロール製粉協会は政府決定の小麦輸出禁止解除を歓迎しており、これによって国内の小麦粉価格下落を防ぐことができると期待している。また、これによって高蛋白質小麦の中東諸国への輸出が可能になる。政府は2011-12穀物年度(4~3月)に小麦をトン当たり11,700ルピーで2,800万トン買い上げた。9月11日現在、首都で製粉会社が購入する小麦価格はトン当たり11,450~11,500ルピーで、8月21~27日の週の卸売物価指数は前年同期比1.04%の下落だった。

(World-Grain.com・September 12/11)



### インドネシア 北スマトラ州に初の近代的製粉工場が完成。

Pt Halim Sarigandum Prima社が北スマトラ州メダンに建設中だった1日の挽砕能力が150トンの製粉工場が完成し、5月21日に披露を行った。トルコのAlapala Machine Industry Trade社が設計施工を行い、同社製の機械を用いた同州では初めての近代的製粉工場である。

(Grain Feed Milling Technology・August/11)



### ウクライナ 穀物の輸出関税を維持。

7月1日から穀物輸出に関税を導入し、小麦には9% (ただし、トン当たり17ユー

ロを下回らない)の関税が課せられている。輸出業者はロシアの会社の価格がトン当たり30米ドル以上も安いので太刀打ちできないとして、輸出関税の撤廃を求めていたが、政府は財政上の理由からこれを拒否した。

(World-Grain.com・September 6/11)



### オーストラリア (1) 小麦の製パン性改良プロジェクトが発足。

西オーストラリア州農業・食品省、CSIRO(連邦科学産業研究機構)食品未来グループ、George Weston Technologies社、及びMurdoch大学が参加して、国としての小麦品質共同研究プロジェクトが発足する。5年計画で、穀物研究開発財団(GRDC)の資金で行う。オーストラリア小麦はめん用としてアジア市場で評価が高いが、国際市場、特に東南アジアでのベーカリー製品需要増に対応できる製パン性が優れた小麦の開発を行う。CSIROが持つ小麦資源の中から1000系統以上を西オーストラリアとニューサウスウェールズ州で栽培し、優れた遺伝子を見つける。

(World-Grain.com・September 1/11)

### (2) ジョージ・ウエストン社のブリスベン製粉工場が洪水後約9か月で再稼働。

1月のブリスベンでの2メートルを超える洪水で電気系統などに大きな被害を受けたGeorge Weston社のブリスベン工場は、クインズランド州最大の製粉工場である。9か月間の懸命な復旧工事の結果、8月初めに再稼働した。同社はニュージーランドのクライストチャーチ地震でも現地の製粉工場が大きな被害を受けた。

(World-Grain.com・September 2/11)





**カザフスタン 補助金でエジプトへの小麦輸出を維持か。**

エジプトは小麦の大消費国で、1人当たり消費量が世界で最も多い国の一つである。国内産小麦の増産に努めているが、人口増もあって消費量の約50%に相当する700万トンの小麦を毎年輸入し、輸入が増える傾向にある。2010年度はロシアが小麦の輸出禁止を、ウクライナが輸出割当を行ったので、46.75万トンの小麦をエジプトに輸出できた。しかし、その両国に比べて地理的条件から輸送コストが高く、輸送時間も長いので、エジプトへの輸出は不利である。2010-11年度は豊作なので全穀物の輸出を800~900万トンと見込んでおり、そのための措置として政府はエジプト向けの輸送コストの一部を補助する方向で動いている。

(World-Grain.com・September 7/11)



**スイス 小規模だが最新鋭の製粉工場が竣工。**

東部のフルムスで75年間製粉事業を行ってきたウィリ・グルニガー(Willi Grüninger)社は、老朽化した1日の挽砕能力が50トンの工場を廃止して、新たに100トンの能力の工場を建設した。スイスでは6番目の規模の工場である。ビューラー社が建設を請け負い、同社の製粉機械やWinCos.r2制御システムを導入した完全自動工場、夜間は無人運転を行っている。小麦粉、小麦全粒粉など地域の顧客の要望にこまめに対応した製品を自社の15台のトラックで奥地まで配達する。

(diagram・158/11)



**中国 (1) 国有の大手農業会社がオーストラリアの農地購入に動く。**

国有の大手農業会社BeidahuangグループのBDH社はオーストラリアの西オーストラリア州南西部の約8万ヘクタールの農地を購入する方向で動いている。同社は世界中にほぼ100万人の従業員を抱え、オーストラリア、ロシア、フィリピン、ブラジル、アルゼンチン、ジンバブエ、及びベネズエラで農地への投資を拡大している。ただし、これまでは農地を借りる方式が多かったが、今回は購入に動いており、将来の自国民の食糧確保が目的である。オーストラリアの農家の対応は様々で、農業団体などは困惑を隠せない状況である。

(World-Grain.com・August 31/11)

**(2) 第12次農業発展5か年計画を発表。**

農務省は第12次農業発展5か年計画を発表した。穀物作付面積は1.06億ヘクタールを維持し、穀物生産能力は2010年の5.46億トンに近い年に5.4億トン以上を維持する。綿花と油糧種子は少し増産する。一次産業の付加価値を2011年から2015年までの間に年率5%の割合で高め、農家の収入を年率7%以上のペースで増加する。今後5年間で、合計4000万人の地方労働者を農業以外に転職させる。

(World-Grain.com・September 6/11)



**ドイツ 穀物挽砕量は増加傾向。粉採取率は変化が少ない。**

製粉工場での小麦とライ麦の挽砕量を[表6]に示した。普通小麦の挽砕量は増加傾向で、2009/10年度には702万トンを挽砕した。デュラム小麦の挽砕量の伸びはそれ以上で、小麦全体の挽砕量の5.4%に相当する39.7万トンになった。ライ麦の挽砕量は減少傾向である。その結果、穀物全体では増加傾向で、2009/10年度には826万トン挽砕した。[表7]は製粉工場

の粉採取率である。デュラム小麦のセモリナと粉の採取率は上昇傾向にあるが、普通小麦とライ麦はかなりの高レベルになっており、ほとんど変化がない。

(Getreide-Jahrbuch 2011/2012)



**ノルウェー パンは高品質志向で売上げは伸びているが、コスト高、輸入品増など大手製パン会社には不利な状況。**

豊かな国で、1人当たり収入も多いので、消費者は焼立ての高付加価値製品をよく買う。過去20年以上、ベーカリーは繁栄を続け、2010年も売上げは量、金額共に5%伸びた。中でもパンが特に伸び、全ベーカリー製品の2/3近くになった。全粒粉、全粒穀物及び多穀物製品がパン市場の3/4を占め、高繊維などの健康に良いパンが主流で、白パンのシェアは2%と低い。手づくりパンより工業生産のパンの方が伸びて、工業規模の製パン会社のシェアは20%になったが、プライベートブランドが強い市場であり、それぞれの地区に特殊なパンが多くある。全国規模の製パン会社はナショナルブランドの他に、それぞれの地区向けの多種類の特殊パンも製造するので、規模のメリットを發揮しにくい。12の工場と900人の従業員を抱えるBakers社が最大手だったが、販売量が減って経営に行き詰まり、身売りの話も出ている。工業規模の製パン会社の一つ、Din Baker社は2010年にプレミアム田舎風パンとサワードウパンを、2011年7月にローズマリーと食塩をトッピングしオリーブ油で揚げたフォカッチャを発売した。Buer社は特殊パンメーカーで、古くからある樹皮パン、北部で需要が多いポテトパンなどを製造している。軟らかいポテト平焼きパンは用途が広いスナックとして、ノルウェー全土で食べられている。

朝食に、保蔵処理した肉、魚やその他のサンドイッチフィリングを包んで、または砂糖やジャムを載せて食べる。Buer社はここ数年2桁の伸びを示しており、最近、新製造ラインを作って1時間当たり32,000個を製造し、季節商品も加えた。2010年の工業生産のケーキは最大手のSætre社が新製品を出したので、売上高は前年を上回ったが、販売量は前年並みだった。新鮮なものを好むので、包装したベーカリー製品はノルウェー人にとって常に妥協の産物である。高価格、プレミアム指向の市場は外国の業者にとって魅力で、2010年にパンと他のベーカリー製品の輸入量は7%増加した。2001年の19,000トンが2009年には41,600トンになり、外国で焼かれた製品のシェアは25%になって、産業を圧迫している。この逆境下で、French Bakery社は2009年に新工場を建設し、輸入量を50%から30%に減らした。同社はベークオフ製品を3社に卸している。2010年にオスロのフレッシュベーカリーを売却し、冷凍製品に集約した。2011年には25%の売り上げ増を予測している。近年、コストが急激に上昇し、5月には、農家が小麦の10%値上げを要求した。製パン会社はそのような価格高騰は輸入と倒産を増やすことになると警告しているが、倒産が増え、利益率が4%を切った。トップブランドでもプライベートラベルが強いので、シェアを落とす危険がある。有機、石臼挽きパン、コレステロール低下パンなどはプライベートラベルでも買うことができ、ケーキでもプライベートラベルは伸びている。4つの大手小売業が食品市場の96%を支配して力が強くなっており、プライベートラベルの好調な売れ行きをその販売力で後押ししている。

(EB・117/11)



**ブラジル** グランデ・モイノ・シアレンセ社が製粉能力を倍増して1日1000トンに。

北東部セアラ州の州都フォルタレザ(人口250万人)では、港に面して3つの製粉工場が並んでいる。そのうちの1つ、Grande Moinho Cearense社は1959年設立の家族経営企業で、Carlos Francisco Ribeiro Jereissatiグループの一員である。年間売上高は約1.75億米ドルで、従業員は175人いる。アルゼンチン、アメリカ、及びカナダから輸入するセミハード及びハード小麦から、業務用のパン、パスタ、クッキー(ビスケット)用粉と家庭用小麦粉を製造する。既存の建物を用い、従来の1日500トンミルの隣に新しく500トンミルを増設した。ビューラー社のローラーミル「アンタレス」を採用して、12基の4本ローラーと5基の8本ローラーを装備した。10室のコンパートメントを持つ3基のプランシフター「シリウス」やピュリファイヤー「プロマット」などがある。MWPL袋詰コンベヤの能力は1時間に50キログラム詰めを800袋で、ふすまは40キログラム詰めを600袋である。WinCos.r2中央制御システムで管理する。

(diagram 158/11)



**フランス** 小麦粉の1人当たり食用消費量は減少傾向。

小麦粉の食用消費量の推移を[表8]に示した。総食用消費量は50年前から減少を続けていたが、移民等による人口増によって1970年代の終わりごろから増加に転じ、近年は50年前と同レベルにまで戻った。しかし、1人当たりの年間消費量は1960年代に大幅に減少し、それ以降も微減傾向が続いている。

(annuaire de la Meunerie Française 2011)



**ベネズエラ** 10の製粉工場が輸入小麦を挽砕。

ラテンアメリカ製粉協会(ALIM)によると、製粉工場は10あり、総挽砕能力は170万トンである。また、2万軒のベーカリー、18のパスタ工場、13のクッキー・クラッカー工場がある。農産物の自給率が低く、高める努力をしているが小麦はほとんど生産されない。小麦の消費量は安定しており、年に約150万トンの小麦を主としてアメリカから輸入している。種類別では、デュラム小麦とハード・レッド・スプリング小麦が比較的多い。ベネズエラ製粉協会(Asotrigo)によると、2010年には、輸入小麦の38%がパンに、26%がパスタに、5%がクッキーに、6%が家庭用小袋に、25%が飼料用に使われた。ベネズエラパスタ協会(AVEPASTAS)によると、2010年のパスタ生産量は36.3万トンで、前年比12%の増加だった。

(WG・29-8/11)



**ヨーロッパ連合** 製粉工場の統廃合が進む。

[表9]は2009年の国別の製粉工場数、普通小麦挽砕量、及び国内産小麦使用比率である。ほとんどの国で工場数は減少傾向である。ドイツが302工場で675万トン、フランスが454工場で569万トン、イタリアが259工場で514万トンの小麦を挽いた。ハンガリー、フランス、ドイツ、及びチェコは自給率が高いが、輸入小麦依存の国も多い。

(annuaire de la Meunerie Française 2011)

[表1] 世界及び主要小麦輸出国の小麦需給

(百万トン)

	期初 在庫	生産	輸入 b)	供給計	消費				輸出 b)	期末 在庫
					食用	工業用	飼料用	計 a)		
アルゼンチン(12月/11月)										
2009/10	1.5	8.8	0.0	10.2	3.6	0.1	0.1	4.2	5.3	0.7
2010/11 推定	0.7	14.7	0.0	15.4	3.6	0.1	0.2	4.3	9.0	2.1
2011/12 予測	2.1	13.0	0.0	15.2	3.8	0.1	0.3	4.6	8.0	2.6
オーストラリア(10月/9月)										
2009/10	3.6	21.8	0.0	25.4	2.1	0.4	2.3	5.5	14.8	5.2
2010/11 推定	5.2	26.3	0.0	31.5	2.1	0.5	2.7	6.0	18.7	6.8
2011/12 予測	6.8	25.5	0.0	32.3	2.2	0.5	3.5	6.9	18.0	7.4
カナダ(8月/7月)										
2009/10	6.5	26.8	0.1	33.5	3.0	0.5	2.8	7.2	18.5	7.8
2010/11 推定	7.8	23.2	0.1	31.1	3.0	0.5	3.2	7.7	16.2	7.2
2011/12 予測	7.2	24.0	0.0	31.2	3.0	0.8	3.5	8.3	16.8	6.1
EU-27(7月/6月)										
2009/10	23.0	138.3	5.1	166.5	54.0	10.2	56.2	128.2	22.2	16.1
2010/11 推定	16.1	136.8	4.7	157.6	54.0	10.2	49.6	121.0	23.7	12.9
2011/12 予測	12.9	137.0	7.5	157.4	54.0	11.6	53.4	127.4	17.2	12.8
カザフスタン7(7月/6月)										
2009/10	2.2	16.5	0.0	18.7	2.6	0.1	1.8	7.2	8.0	3.4
2010/11 推定	3.4	10.0	0.1	13.5	2.2	0.0	1.5	6.3	5.6	1.6
2011/12 予測	1.6	15.0	0.1	16.6	2.3	0.1	1.8	7.3	7.0	2.4
ロシア(7月/6月)										
2009/10	11.0	61.7	0.1	72.9	16.7	0.4	16.5	40.1	18.8	14.0
2010/11 推定	14.0	41.5	0.0	55.5	16.7	0.3	16.5	39.7	4.0	11.8
2011/12 予測	11.8	58.0	0.1	69.8	16.8	0.5	17.5	41.5	16.0	12.3
ウクライナ(7月/6月)										
2009/10	2.5	20.9	0.0	23.4	5.8	0.2	3.5	11.8	9.3	2.3
2010/11 推定	2.3	16.8	0.0	19.2	5.8	0.2	3.1	11.4	4.3	3.5
2011/12 予測	3.5	21.5	0.1	25.1	5.8	0.2	3.3	12.1	8.5	4.5
アメリカ(6月/5月)										
2009/10	17.9	60.4	3.3	81.5	24.5	0.6	4.1	31.0	23.9	26.6
2010/11 推定	26.6	60.1	2.6	89.3	24.5	0.6	3.5	30.8	35.1	23.4
2011/12 予測	23.4	55.0	3.0	81.4	25.0	0.6	6.5	34.2	27.9	19.3

	期初 在庫	生産	輸入 b)	供給計	消費				輸出 b)	期末 在庫
					食用	工業用	飼料用	計 a)		
主要輸出国計										
2009/10	68.1	355.3	8.7	432.0	112.2	12.4	87.3	235.1	120.8	76.1
2010/11 推定	76.1	329.5	7.4	413.0	111.9	12.2	80.4	227.2	116.6	69.3
2011/12 予測	69.3	349.0	10.7	429.0	112.9	14.2	89.8	242.2	119.4	67.5
中国(7月/6月)										
2009/10	43.5	115.1	1.4	160.1	89.0	3.0	8.0	106.5	0.4	53.2
2010/11 推定	53.2	115.2	1.0	169.3	88.5	3.1	13.0	112.6	0.5	56.3
2011/12 予測	56.3	116.0	1.0	173.3	87.5	3.1	16.0	114.5	0.5	58.4
インド(4月/3月)										
2009/10	13.1	80.7	0.3	94.1	68.6	0.2	0.3	77.1	0.0	16.9
2010/11 推定	16.9	80.8	0.2	97.9	73.1	0.2	0.3	82.1	0.0	15.9
2011/12 予測	15.9	85.9	0.1	101.9	76.0	0.2	0.3	84.8	2.0	15.1
世界計			c)					a)	c)	
2009/10	171.2	678.5	127.7	849.7	452.5	19.1	114.7	652.4	127.7	197.3
2010/11 推定	197.3	651.1	126.6	848.4	456.6	18.9	113.7	655.6	126.6	192.8
2011/12 予測	192.8	678.9	128.0	871.7	461.9	21.0	126.9	678.8	128.0	192.9

a) 種子用および廃棄分を含む、b) 製粉製品の推定輸出货量を含む、c) IGC7月/6月データ：製粉製品の貿易を含まない。

(2011年9月22日現在)

(IGC)

[表2] 世界の小麦生産量

(百万トン)

地区・国名		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)	
ヨーロッパ	EU-27	ブルガリア	4.6	4.0	4.0	4.4
		チェコ	4.7	4.4	4.2	4.9
		デンマーク	5.0	5.9	5.3	5.2
		フランス	39.0	38.3	38.1	35.7
		ドイツ	26.0	25.2	24.0	22.5
		ハンガリー	5.6	4.4	3.8	4.0
		ギリシャ	1.9	1.8	1.6	1.2
		イタリア	8.9	6.3	6.9	6.8
		ポーランド	9.3	9.8	9.5	9.3
		ルーマニア	7.2	5.2	6.0	7.2
		スロバキア	1.8	1.5	1.2	1.5
		スペイン	6.8	4.8	5.7	6.4
		スウェーデン	2.2	2.3	2.2	2.5
		イギリス	17.3	14.1	14.9	15.1
		その他	10.3	10.3	9.5	10.3
		計	150.7	138.3	136.8	137.0
		セルビア	2.1	2.1	1.7	2.0
	その他	2.8	2.5	2.2	2.6	
	計	155.5	143.0	140.7	141.5	
CIS	カザフスタン	13.0	16.5	10.0	15.0	
	ロシア	63.8	61.7	41.5	58.0	
	ウクライナ	25.9	20.9	16.8	21.5	
	その他	14.7	14.5	13.9	14.8	
	計	117.3	113.6	82.3	109.3	
北・中アメリカ	カナダ	28.6	26.8	23.2	24.0	
	メキシコ	4.0	4.3	3.7	3.7	
	アメリカ	68.0	60.4	60.1	55.0	
	その他	T	T	T	T	
	計	100.6	91.5	87.0	82.7	
南アメリカ	アルゼンチン	8.4	8.8	14.7	13.0	
	ブラジル	6.0	5.0	5.9	5.1	
	チリー	1.2	1.1	1.2	1.4	
	ウルグアイ	0.7	1.7	1.2	1.1	
	その他	0.9	1.3	1.6	1.3	
	計	17.3	17.9	24.6	21.9	

地区・国名		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)	
近東 アジア	イラン	10.0	12.0	15.5	13.5	
	サウジアラビア	1.8	0.9	1.3	1.0	
	シリア	2.1	4.0	3.6	3.8	
	トルコ	17.0	18.5	17.5	19.0	
	その他	1.7	1.9	2.8	2.6	
	計	32.6	37.3	40.6	39.9	
極東 アジア	太平洋 アジア	中 国	112.5	115.1	115.2	116.0
		その他	1.4	1.1	1.2	1.4
		計	113.9	116.2	116.4	117.4
	南アジア	アフガニスタン	3.5	4.1	3.7	4.2
		インド	78.6	80.7	80.8	85.9
		パキスタン	21.0	24.0	23.9	24.0
		その他	2.3	2.2	2.4	2.1
		計	105.3	111.1	110.8	116.2
	計	219.2	227.3	227.2	233.6	
	アフリカ	北アフリカ	アルジェリア	1.3	3.6	3.1
エジプト			8.0	8.5	7.5	8.3
リビア			0.1	0.2	0.2	0.1
モロッコ			3.7	6.4	4.9	6.1
チュニジア			1.6	1.6	0.8	1.5
計			14.7	20.2	16.5	19.0
サハラ以南		エチオピア	2.5	2.2	3.0	2.1
		南アフリカ	2.1	2.0	1.4	2.0
		その他	1.4	1.3	1.2	1.0
		計	6.0	5.4	5.6	5.1
計		20.7	25.7	22.1	24.1	
オセア ニア	オーストラリア	21.4	21.8	26.3	25.5	
	計	21.8	22.2	26.6	25.8	
世 界 計		685.0	678.5	651.1	678.9	

(2011年9月22日現在) Tは5万トン以下

(IGC)

[表3] 世界の小麦粉貿易量(デュラム・セモリナを除く)

(小麦換算、千トン)

地域・国名		08/09	09/10	10/11(推定)	11/12(予測)	
輸 入 国	ヨーロッパ	EU-27	35	43	40	40
		その他	67	25	40	40
		計	102	68	80	80
	CIS	ロシア	14	8	15	20
		タジキスタン	667	487	550	600
		ウズベキスタン	1,222	1,499	1,300	1,400
		その他	544	246	505	410
		計	2,447	2,239	2,370	2,430
	北・中 アメリカ	カナダ	165	117	115	150
		キューバ	191	74	35	100
		メキシコ	46	67	105	80
		アメリカ	235	229	230	200
		その他	81	130	135	100
		計	718	618	620	630
	南アメリカ	ボリビア	369	350	295	300
		ブラジル	871	887	950	950
		その他	118	61	55	80
		計	1,358	1,298	1,300	1,330
	近東 アジア	イラク	1,031	1,184	1,000	1,100
		イエメン	154	76	80	100
その他		467	354	320	300	
計		1,652	1,614	1,400	1,500	
極東 アジア	アフガニスタン	1,425	1,779	1,300	1,400	
	香港	348	358	360	380	
	インドネシア	782	1,005	1,030	900	
	北朝鮮	58	125	180	120	
	韓国	77	116	55	80	
	モンゴル	158	142	70	100	
	フィリピン	159	190	125	150	
	タイ	138	155	240	180	
	ベトナム	23	37	40	30	
	その他	285	434	370	410	
	計	3,453	4,341	3,770	3,750	
アフリカ	北 ア フリ カ	リビア	758	385	100	50
	その他	21	12	130	20	
	計	780	397	230	70	



輸 入 国	アフリカ	サ ハ ラ 以 南	アンゴラ	524	459	550	550
			チャド	73	103	55	75
			ガンビア	58	77	90	60
			ギニア	117	136	125	110
			ソマリア	115	151	105	100
スーダン			108	100	30	75	
その他			411	448	555	470	
計			1,406	1,475	1,510	1,440	
	計		2,186	1,872	1,740	1,510	
	オセアニア		61	67	70	70	
	不詳		354	568	440	500	
	世界計		12,331	12,685	11,790	11,800	
輸 出 国	アルゼンチン		1,368	1,278	1,285	1,300	
	オーストラリア		185	150	100	130	
	カナダ		223	262	225	230	
	EU		1,482	1,245	1,300	1,200	
	カザフスタン		2,733	3,514	2,500	3,000	
	ロシア		665	381	570	350	
	ウクライナ		309	165	120	130	
	アメリカ		388	545	405	450	
	中国		214	388	420	400	
	日本		245	269	270	270	
	パキスタン		500	300	600	400	
	トルコ		2,161	2,602	2,400	2,600	
	アラブ首長国連邦		650	550	500	450	
	その他		1,207	1,034	1,095	890	

(2011年8月25日現在)

(IGC)

[表4] アメリカの小麦粉価格

(ばら、f.o.b.car、ドル/トン)

市場	種類	2011								
		1/14	2/18	3/18	4/15	5/13	6/17	7/15	8/19	9/9
カンサスシテイ	ベーカーズ・ショート・パテント	440.9	499.3	460.8	481.7	486.1	466.3	437.6	451.9	426.6
	ベーカーズ・スタンダード・パテント	438.7	497.1	458.6	479.5	483.9	464.1	435.4	449.7	424.4
	セカンド・クリアー	275.6	275.6	275.6	275.6	275.6	275.6	275.6	275.6	275.6
	サード・クリアー	127.9	127.9	127.9	127.9	127.9	127.9	127.9	127.9	127.9
ミネアポリス	スプリング・ショート・パテント	511.5	578.7	560.0	582.0	577.6	606.3	558.9	513.7	467.4
	スプリング・スタンダード・パテント	509.3	576.5	557.8	579.8	575.4	604.1	556.7	511.5	465.2
	ハイ・グルテン	575.4	642.6	623.9	645.9	641.5	670.2	622.8	577.6	531.3
	ホール・ホイト	509.3	576.5	557.8	579.8	575.4	604.1	556.7	511.5	465.2
	スペシャルティ・ホール・ホイト	519.2	584.2	565.5	587.5	583.1	611.8	564.4	519.2	471.8
	ファンシィ・スプリング・クリアー	506.0	573.2	554.5	576.5	572.1	600.7	553.4	508.2	461.9
	ファースト・スプリング・クリアー	503.7	571.0	552.2	574.3	569.9	598.5	551.1	506.0	459.7
	ライ (ホワイト)	457.5	459.7	453.0	463.0	468.5	479.5	470.7	479.5	461.9
シカゴ	クラッカー	401.2	437.6	372.6	382.5	369.3	363.8	359.3	374.8	351.6
	ファンシー・ケーキ	434.3	470.7	405.6	415.6	402.3	396.8	392.4	407.8	384.7
ニューヨーク	ウインター／スプリング・ブレンド	493.8	552.2	513.7	534.6	539.0	519.2	490.5	504.9	479.5
	スプリング・スタンダード・パテント	562.2	632.7	608.5	620.6	636.0	660.3	615.1	574.3	530.2
	ハイ・グルテン	628.3	698.9	674.6	686.7	702.2	726.4	681.2	640.4	596.3
	ファンシー・ケーキ	478.4	514.8	449.7	459.7	446.4	440.9	436.5	451.9	428.8
	ライ (ホワイト)	512.6	514.8	508.2	518.1	523.6	534.6	525.8	534.6	517.0
ゼルサン	ベーカーズ・スタンダード・パテント	479.5	529.1	496.0	519.2	551.1	543.4	509.3	530.2	552.2
	ベストリー	474.0	507.1	485.0	524.7	543.4	521.4	503.7	532.4	528.0

(MBN、FBN)

[表5] アメリカ小麦の生産者平均手取り価格

(ドル/ブッシェル)

月別	2011	2010	2009	2008	2007
1月	6.69	4.90	6.20	7.96	4.53
2月	7.42	4.73	5.79	10.10	4.71
3月	7.55	4.70	5.71	10.50	4.75
4月	8.01	4.41	5.75	10.10	4.89
5月	8.16	4.34	5.85	8.87	4.88
6月	7.41	4.16	5.72	7.62	5.03
7月	7.10	4.49	5.17	7.16	5.17
8月	7.56	5.44	4.85	7.64	5.64
9月		5.79	4.48	7.43	6.76
10月		5.88	4.47	6.67	7.65
11月		6.10	4.79	6.28	7.39
12月		6.44	4.87	5.91	7.71

(USDA)

[表6] ドイツの穀物挽砕量

(千トン)

	2003/04	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10
普通小麦	6,525	6,538	6,832	6,667	6,828	6,749	7,020.7
デュラム小麦	328	340	378	380	439	383	396.9
ライ麦	909	895	902	894	922	900	841.6
計	7,762	7,773	8,112	7,941	8,189	8,031	8,259.2

(BLE)

[表7] ドイツの製粉工場の粉採取率

(千トン)

	2003/04	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10
普通小麦	72.9	79.8	79.3	79.5	79.6	80.0	79.6
デュラム小麦	71.0	72.3	71.2	72.2	72.7	73.0	72.9
ライ麦	88.5	89.7	87.3	88.1	87.6	88.7	89.5

(BLE)

[表8] フランスの小麦粉食用消費量

年	総食用消費量 (トン)	1人当たり平均 食用消費量 (kg)	年	総食用消費量 (トン)	1人当たり平均 食用消費量 (kg)
1959	3,980,000	86.1	1986	3,573,051	64.8
1960	3,770,000	84.5	1987	3,518,422	63.1
1961	3,866,000	83.7	1988	3,629,202	64.8
1962	3,841,000	80.6	1989	3,523,041	62.2
1963	3,867,000	79.8	1990	3,579,729	62.9
1964	3,831,000	78.4	1991	3,674,171	64.2
1965	3,811,000	77.9	1992	3,658,228	63.6
1966	3,716,454	75.7	1993	3,616,013	62.6
1967	3,679,591	74.1	1994	3,665,323	63.2
1968	3,500,212	71.9	1995	3,689,687	63.3
1969	3,439,074	68.6	1996	3,719,330	63.8
1970	3,395,714	67.2	1997	3,781,914	64.6
1971	3,353,363	65.7	1998	3,804,825	64.8
1972	3,345,891	65.0	1999	3,812,731	65.2
1973	3,350,910	64.5	2000	3,810,103	64.9
1974	3,351,086	64.0	2001	3,839,165	65.0
1975	3,390,490	64.4	2002	3,782,789	63.7
1976	3,373,310	63.7	2003	3,737,313	62.7
1977	3,383,446	63.7	2004	3,764,472	62.5
1978	3,492,821	65.6	2005	3,862,071	63.3
1979	3,496,604	65.5	2006	3,927,097	62.2
1980	3,492,218	65.0	2007	3,985,062	62.7
1981	3,475,589	64.0	2008	3,956,230	61.9
1982	3,461,816	63.7	2009	3,974,311	61.8
1983	3,434,823	62.9			
1984	3,503,087	63.9			
1985	3,555,075	64.3			

(ANMF/FranceAgriMer)

[表9] ヨーロッパの製粉工場数と普通小麦挽砕量（2009年）

国名	製粉工場数	普通小麦挽砕量 (トン)	国内産小麦使用比率 (%)
ドイツ	302	6,748,700	95
オーストリア	138	632,000	80
ベルギー (2008)	38	1,700,000	35
デンマーク	5	350,000	50
スペイン	148	3,600,000	40
エストニア (2008)	1	70,000	75
フィンランド	7	274,800	80
フランス	454	5,685,569	99
イギリス・アイルランド	57	4,948,837	81
ハンガリー	62	1,300,000	100
イタリア	259	5,140,000	35
オランダ (2008)	14	1,387,125	40
ポーランド	490	4,200,000	75
ポルトガル (2008)	21	850,000	5
チェコ (2008)	48	1,080,000	92
ルーマニア (2008)	1600	1,900,000	85
スロベニア	8	135,000	45
スイス (2008)	66	470,000	85

(ヨーロッパ製粉協会加盟国)

(ANMF/European Flour Millers)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向(23年度)

(単位：千トン、前年比%)

年 月	玄			麦			小			粉		
	買入数量	対前年比	加工量	対前年比	月末在庫	対前年比	生産量	対前年比	販売量	対前年比	月末在庫	対前年比
平成17年度	6,039	98.3	6,030	98.9	461	102.2	4,623	99.1	4,615	99.0	282	102.9
平成18年度	6,271	103.8	5,982	99.2	751	162.9	4,599	99.5	4,594	99.5	287	101.8
平成19年度	5,901	94.1	6,037	100.9	616	82.0	4,684	101.8	4,677	101.8	293	102.1
平成20年度	5,748	97.4	5,848	96.9	517	83.9	4,564	97.4	4,575	97.8	282	96.3
平成21年度	5,802	101.1	5,916	101.4	405	78.2	4,612	101.1	4,620	101.0	274	97.1
平成22年度	6,559	113.0	6,041	102.1	924	228.1	4,725	102.4	4,690	101.5	308	112.6
22.4	505	116.8	543	102.0	368	87.7	428	104.1	425	103.8	277	97.6
5	534	105.4	489	100.6	413	93.9	385	101.2	372	99.5	290	99.9
6	466	105.9	493	102.2	386	97.1	388	104.5	388	102.0	289	103.1
7	524	97.7	490	100.5	419	94.1	382	100.8	385	100.3	286	103.8
期 計	2,029	105.9	2,016	101.3	1,582	102.7	1,570	101.5	1,570	101.5		
8	514	114.1	473	101.8	460	106.7	366	100.4	362	100.0	290	104.3
9	1,278	276.8	492	101.2	1,247	306.3	382	100.9	386	99.7	286	106.1
10	235	44.7	501	96.5	980	237.4	394	97.2	382	96.4	298	106.9
11	509	99.9	517	104.7	973	226.8	404	104.0	407	104.9	296	105.7
期 計	2,536	130.2	1,983	101.0	1,547	100.6	1,547	100.6	1,537	100.2		
12	479	88.9	549	102.6	902	208.7	428	102.7	435	102.8	289	105.6
23.1	426	95.6	461	100.0	867	208.0	361	99.7	346	102.3	304	102.2
2	564	127.0	479	106.4	952	231.8	373	103.1	368	103.1	309	105.9
3	524	102.7	552	107.0	924	228.1	434	107.6	435	103.1	308	112.6
期 計	1,993	102.8	2,042	104.0	1,612	105.1	1,599	103.8	1,599	103.8		
23.4	533	105.5	564	103.9	893	242.8	441	103.1	434	102.2	315	114.0
5	470	88.0	512	104.7	855	207.3	394	102.5	390	104.9	320	110.4
6	523	112.3	526	106.8	852	220.9	407	105.1	416	107.1	311	107.6
7	573	109.4	461	94.1	964	229.9	354	92.8	350	90.8	316	110.5
期 計	2,100	103.5	2,060	102.2	1,597	101.0	1,597	101.0	1,590	101.3		
8	720	140.0	455	96.2	1,229	267.0	351	95.8	365	101.0	302	103.8
9												
10												
11												
期 計												
12												
24.1												
2												
3												
期 計												
年度計												

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買受分(19年度から)、大臣証明制度による輸出入見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出入を除いた数量である。  
 2. 「製粉・精麦・麦茶工場需給実績報告」(総合食料局食糧貿易課)による。  
 3. 四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。  
 4. 23年6月分は速報のため、選って訂正がある場合があります。

### 小麦加工食品の輸入の推移

(単位：トン、金額：千円)

区分 年月	レート	小麦粉			小麦(ひき割、ミール、パレット)			小麦グルテン			小麦粉調製品			ケーキミックス			マカロニ、スパゲティ		
		数量	前増減率	金額	数量	前増減率	金額	数量	前増減率	金額	数量	前増減率	金額	数量	前増減率	金額	数量	前増減率	金額
平成15年	116	1,138	-5.1	90,424	13,362	7.6	2,232,328	132,603	1.3	13,701,771	8,916	-19.4	727,690	107,755	6.3	12,120,144			
16	108	1,425	25.2	122,263	14,325	7.2	2,361,648	136,256	2.8	14,061,030	8,354	-6.3	677,825	111,527	3.5	12,657,910			
17	110	1,919	34.7	166,340	16,066	12.2	2,709,751	139,802	2.6	15,475,698	9,520	14.0	824,083	109,603	-1.7	12,566,331			
18	116	1,883	-1.9	169,522	14,729	-8.3	2,543,181	138,510	-0.9	16,460,930	5,888	-38.1	563,066	109,791	0.2	13,121,724			
19	118	2,053	9.0	207,113	16,511	12.1	3,275,372	117,021	-15.5	16,465,390	6,398	8.6	721,609	104,411	-4.9	13,935,605			
20	104	1,879	-8.5	243,243	16,876	2.2	3,789,469	100,161	-14.4	16,001,423	4,911	-23.2	702,387	127,254	21.9	22,355,365			
21	93.5	1,991	6.0	214,244	15,443	-7.9	2,993,555	102,464	2.3	14,812,363	5,075	3.3	596,248	116,416	-8.5	16,000,437			
22	88	1,889	-5.1	188,391	16,407	5.6	3,094,539	106,547	4.2	14,282,473	5,239	3.2	565,129	120,654	3.6	13,661,974			
23年1月		179	-2.3	17,570	1,634	36.6	295,100	9,510	9.8	12,231,717	408	-23.1	39,311	10,331	5.2	1,087,392			
2	82	178	439.3	17,796	1,331	36.5	25,442	6,916	17.9	9,283,394	421	-19.5	41,710	8,092	-3.2	832,217			
3	82	186	35.8	21,027	1,696	28.9	315,293	8,732	-0.1	1,150,674	390	16.7	41,103	9,504	12.4	925,573			
4	83	178	19.5	19,082	1,364	-5.8	255,406	10,460	2.7	1,345,595	538	7.2	69,381	9,640	-5.6	1,045,952			
5	82	244	47.0	23,961	1,994	47.7	377,342	9,492	14.5	1,246,099	519	38.4	59,441	16,772	47.6	1,795,500			
6	81	136	22.5	14,060	1,485	1.3	274,536	9,929	11.9	1,189,209	378	-32.7	44,416	15,009	23.9	1,583,079			
7	80	130	-56.3	15,642	1,789	4.8	341,318	8,534	1.4	1,135,824	300	-36.3	33,054	12,267	-3.0	1,399,344			
8	78	222	85.0	20,066	1,516	38.1	276,420	7,555	-15.1	1,144,841	429	54.7	50,872	13,594	21.1	1,479,758			
9																			
10																			
11																			
12																			
23年1月～12月累計		1,453	20.8	149,204	12,808	21.4	2,409,857	71,132	0.9	9,421,587	3,382	-8.8	379,288	95,955	14.0	10,339,658			
米	国	4.5	-28.6	4,969	828	172.8	198,342	4,907	-12.2	896,101	2,182	-18.0	258,434	13,291	7.5	1,755,766			
英	国							494	36.9	56,460									
中	国	552	36.0	64,179	72	100.7	12,186	6,527	-6.5	1,252,838	7		2,484	5	43.4	2,515			
仏	国				1,455	117.6	228,939	2,080	-11.3	774,987				10	-16.5	2,477			
香	港							846	-46.7	60,038									
日	本																		
米	国																		
メキシコ	国				1,233	-9.4	188,890	33,395	5.3	2,518,526	1,125	12.6	100,812	11,731	23.7	819,914			
カナダ	国																		
アメリカ	国	12	33.0	1,985	1,051	60.8	147,655	648	-3.1	230,390	30		7,723	22	-32.2	5,632			
オーストラリア	国				1,241	-5.0	267,507	3,586	36.4	359,654									
ニュージーランド	国							31	129.9	12,795									
台湾	国							146	1.3	61,923	20	132.8	3,696	37	-19.4	4,824			
インドネシア	国				40	122.2	6,433	188	14.6	57,250	2	-50.0	403	6	161.7	1,204			
シンガポール	国							10,704	10.1	1,443,322	0		224	4	-63.7	1,640			
フィリピン	国	6	-50.0	959	6,655	14.6	1,318,332	3,673	-24.3	530,694	10	-56.9	4,527						
ジャバ	国							998	-21.4	267,483	5		467						
インドネシア	国							1,662	0.5	511,818									
マレーシア	国							815	5.2	236,687									
フィリピン	国				183	18.9	55,607				2	-84.3	458						
インドネシア	国				174	-17.3	33,088												
オーストラリア	国							86		15,097									
インドネシア	国	774	22.7	69,335				5	-13.6	3,247									
その他の	他	64	-22.0	7,777	60	-15.8	8,485	49	3.6	14,760									

(次頁につづく)

年月	区分	レート	うどんおよびそうめん			その他のめん類			食パン、乾パン類			ビスケット			ふすま		
			数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率
平成15年	116		2,222	546,577	4.9	15,876	4,675,028	14.7	20,657	7,170,065	39.9	70,219	7,170,065	70,219	7,170,065	-34.4	1,028,191
16	108		1,521	394,302	27.1	20,173	6,134,470	14.0	25,182	2,374,572	21.9	82,538	8,127,776	82,538	8,127,776	17.5	1,190,250
17	110		1,824	438,190	8.6	21,913	7,000,182	5.0	23,937	2,552,981	-4.9	100,493	7,996,474	100,493	7,996,474	21.8	1,544,012
18	116		1,681	433,966	4.9	22,984	7,355,196	5.9	24,480	3,046,143	2.3	89,037	8,445,272	89,037	8,445,272	-11.4	1,462,153
19	118		1,775	425,814	-0.1	22,960	7,582,286	-19.8	23,105	2,715,392	-5.6	95,269	9,038,272	95,269	9,038,272	7.0	2,053,963
20	104		883	281,946	-50.3	23,119	7,594,585	-31.0	17,998	1,977,817	-22.1	117,781	8,023,832	117,781	8,023,832	23.6	3,100,764
21	93.5		688	155,524	-22.0	24,340	6,815,396	5.619	16,506	1,741,201	-8.3	110,350	6,706,094	110,350	6,706,094	-6.3	1,986,586
22	88		484	131,503	-29.6	23,950	5,802,780	8.314	19,360	2,717,998	17.3	94,562	7,141,796	94,562	7,141,796	-14.3	1,764,462
23年1月	83		2	575	3.5	2,134	500,935	590	1,617	170,262	16.17	1,674	592,825	1,674	592,825	77.4	34,383
2	82		17	5,448	14.1	1,758	425,254	515	1,285	136,758	11.6	11,765	428,116	11,765	428,116	84.8	217,775
3	82		35	10,359	16.0	2,074	524,934	599	1,864	170,967	7.597	8,544	681,913	8,544	681,913	220.5	150,917
4	83		41	12,135	2.385	2,385	595,506	757	2,128	219,697	19.7	5,444	737,766	5,444	737,766	-62.0	150,471
5	82		45	18,930	16.7	2,343	593,500	591	32.5	141,066	2.146	9,100	699,855	9,100	699,855	175.0	526,641
6	81		61	11,782	2.298	2,298	571,270	624	15.3	155,600	2.253	9,100	740,869	9,100	740,869	248.9	186,560
7	80		62	13,608	-23.5	2,297	580,250	719	32.7	213,688	1.811	234	620,382	234	620,382	-97.6	6,068
8	78		20	5,114	6.6	2,443	590,558	726	30.7	197,140	-3.7	1,560	596,808	1,560	596,808	-10.0	147,917
9																	
10																	
11																	
12																	
23年1月～12月累計			282	77,951	6.9	17,733	4,382,207	5,124	20.1	1,409,212	14.658	14,658	5,088,894	14,658	5,088,894	14.8	1,380,732
米								792	20.0	125,535	1,293	38	545,333	38	545,333	0	2,575
英								4	-76.3	1,933	456	139	326,401	139	326,401	33.7	15,602
中			91	14,642	8.0	11,280	2,932,350	879	115.8	215,846	1,955	2,351	437,141	2,351	437,141	7,246.9	50,576
仏								706	-7.5	367,674	838	976	555,410	976	555,410		
香											2	2	40,912	2	40,912		
台											115	85.9	40,912	115	40,912		
日											6	85.7	412	6	412		
韓			4	646							0	0	857	0	857		
米											1,070	34.7	533,673	1,070	533,673		
独								841	77.0	145,555	802	267	160,799	267	160,799		
独								310	-25.2	81,776	74	32.5	36,959	74	36,959		
独								337	367.7	75,746	368	12.6	126,966	368	126,966		
独			3	1,442				598	-26.8	146,175	257	15.5	122,313	257	122,313		
独								19	-18.1	4,659	310	32.4	56,979	310	56,979		
独								33	-3.3	11,145	58	18.9	88,467	58	88,467		
独								1	-54.5	986	121	-0.1	57,038	121	57,038		
独			34	7,262	5.1	34	7,262	28	7.2	37,214	433	-8.6	226,690	433	226,690		
独								28	7.2	37,214	65	53.7	49,973	65	49,973		
独								66	21.6	20,020	90	263.0	30,422	90	30,422		
独			191	63,309	-8.0	222	51,424	66	21.6	20,020	90	263.0	30,422	90	30,422		
独								31	-0.2	99,932	1,860	50.6	366,121	1,860	366,121		
独								2		2,022	1		2,022	1	2,022		
独								79	-23.6	31,515	1,771	18.9	496,041	1,771	496,041		
独								2	-3.4	2,289	976	44.2	185,387	976	185,387		
独								52	2.8	20,725	73	-66.7	30,221	73	30,221		
独			2,735	435,038	-1.8	114	45,985	114	2.0	45,985	341	-1.3	129,335	341	129,335		
独			18	5,947	136.6	227	65,591	227	12.7	65,591	790	12.1	241,004	790	241,004		
独																	

(注) 財務省貿易統計(全国分>品別国別表>輸入>月次)による。



小麦加工食品の輸出の推移

(単位：トン、金額：千円)

区分 年月	小麦粉、小麦(ひき割、ミール、ペレット)			小麦粉調製品(ケーキ、ミックスを含む)			マカロニおよびスパゲッティ			うどんおよびそうめん		
	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額
平成15年	116	-0.4	9,272,192	1,545	5.9	441,651	410	62.0	64,642	6,582	-9.9	1,748,517
16	108	-4.5	8,332,834	1,791	16.0	558,959	328	-20.0	45,188	7,719	17.3	2,008,637
17	110	-4.8	8,048,049	2,317	29.4	744,439	1,054	221.3	110,260	7,863	1.9	2,062,502
18	116	0.0	7,895,261	2,442	5.4	797,965	1,196	13.4	126,174	10,065	28.0	2,476,428
19	118	-11.9	7,725,611	3,151	29.1	1,043,144	1,150	-3.8	140,800	12,561	24.8	2,988,513
20	104	-26.8	8,338,085	3,377	7.1	1,242,742	743	-35.4	150,112	12,517	-0.3	3,227,623
21	93.5	-0.9	5,414,482	3,113	-7.8	1,150,484	822	10.6	150,825	11,947	-4.6	3,124,772
22	88	5.9	5,860,022	3,574	14.8	1,256,700	770	-6.3	139,835	12,492	4.6	3,214,545
23年1月	83	-25.9	344,882	155	46.5	58,706	48	-29.4	5,594	970	-3.8	229,675
2	82	20.51	587,770	188	-37.1	63,141	60	37.1	9,860	927	6.3	247,586
3	82	17.53	501,683	210	-9.7	92,496	62	38.4	9,859	995	-5.7	265,137
4	83	11.06	402,848	175	-55.2	57,071	36	-47.1	7,482	887	-28.4	223,849
5	82	13.81	431,416	126	-55.0	54,851	49	-8.6	9,358	910	-5.0	234,453
6	81	20.46	595,877	211	1.5	80,312	28	-46.5	5,483	856	7.0	218,087
7	80	15.31	484,678	151	-44.8	59,824	33	-46.9	6,867	1,003	-1.8	263,818
8	78	16.76	491,110	181	-25.2	72,291	74	10.8	10,041	904	-9.3	225,113
9												
10												
11												
12												
23年1~12月計	125,867	-3.5	3,839,564	1,398	-36.9	538,692	391	-15.0	64,514	7,451	-6.3	1,907,718
区分 年月	バスケット(スイート)			その他のベーカリー製品等			インスタントラーメン					
	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額			
平成15年	1,052	10.3	868,674	8,220	0.9	6,435,115	8,743	-3.4	2,967,360			
16	769	-26.9	720,628	9,328	13.5	7,104,285	8,288	-5.2	2,847,158			
17	719	-6.6	762,779	12,274	31.6	8,722,215	8,445	1.9	3,214,048			
18	116	6.1	804,131	13,120	6.9	9,755,783	9,091	7.7	3,586,187			
19	118	44.2	1,133,758	14,688	12.0	11,536,637	9,200	1.2	3,645,447			
20	104	9.1	1,270,762	14,672	-0.1	12,115,107	8,120	-11.7	3,507,616			
21	93.5	-26.1	993,506	11,972	-18.4	10,258,866	6,181	-23.9	2,919,649			
22	88	97.4	1,067,436	13,343	11.5	11,770,935	5,981	-3.2	2,825,812			
23年1月	83	-29.7	71,186	860	-28.7	100,076	411	-8.8	185,743			
2	82	57	63,905	1,030	10.6	840,462	431	-9.3	183,226			
3	82	70	68,876	1,025	9.7	892,087	434	-14.8	185,924			
4	83	57	66,292	832	-18.0	674,195	285	-53.5	102,682			
5	82	30	32,367	639	-41.1	569,502	376	-21.4	155,597			
6	81	44	45,550	1,003	-8.5	798,765	435	-14.5	192,831			
7	80	46	52,670	976	2.6	863,297	536	14.2	210,583			
8	78	45	55,355	860	-17.6	758,278	319	-30.5	143,894			
9												
10												
11												
12												
23年1~12月計	423	-21.8	456,201	7,225	-12.5	5,496,662	3,228	-18.6	1,360,480			

(注) ①財務省貿易統計(全国分)品別国別表「輸出」による。  
 ②その他のベーカリー製品等は、スイートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスバー等という。

国際価格の推移

(単位：トン当たりドル、( )内はブッシェル当たりドル)

品名	年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
小麦 (シカゴ・SRW小麦No.2, 期近もの)	2003	(3.13)	(3.34)	(3.00)	(2.86)	(3.22)	(3.16)	(3.15)	(3.79)	(3.56)	(3.35)	(4.06)	(3.87)	
		115	123	110	105	118	116	116	139	131	123	149	142	
	2004	(3.86)	(3.75)	(3.73)	(3.83)	(3.54)	(3.33)	(3.03)	(3.37)	(3.03)	(3.19)	(3.06)	(3.03)	
		142	138	137	141	130	129	122	111	124	117	112	111	
	2005	(2.98)	(3.00)	(3.68)	(3.09)	(3.06)	(3.23)	(3.49)	(3.49)	(3.16)	(3.23)	(3.39)	(3.07)	(3.19)
		109	110	135	114	113	119	128	119	116	119	125	113	117
	2006	(3.29)	(3.52)	(3.62)	(3.50)	(4.00)	(3.62)	(3.66)	(3.66)	(3.77)	(3.93)	(5.43)	(4.82)	(4.94)
		121	129	133	129	147	133	134	138	144	144	199	177	182
	2007	(4.64)	(4.53)	(4.61)	(4.88)	(4.97)	(6.07)	(6.02)	(6.02)	(6.97)	(8.46)	(9.53)	(7.78)	(8.55)
		170	167	169	179	183	223	221	256	311	256	350	282	314
	2008	(9.32)	(9.43)	(10.93)	(8.96)	(7.76)	(8.77)	(8.11)	(8.11)	(8.25)	(7.27)	(5.56)	(5.34)	(5.20)
		342	378	426	329	284	322	298	298	303	267	204	196	191
2009	(5.69)	(5.36)	(5.44)	(5.22)	(5.78)	(5.75)	(5.35)	(5.35)	(4.82)	(4.71)	(5.05)	(5.39)	(5.37)	
	209	197	200	192	212	211	196	196	177	173	186	198	197	
2010	(5.10)	(4.87)	(4.79)	(4.91)	(4.72)	(4.52)	(5.96)	(5.96)	(7.03)	(7.27)	(7.05)	(6.73)	(7.65)	
	187	179	176	180	173	166	219	219	258	267	259	247	281	
2011	(7.73)	(8.40)	(6.68)	(7.44)	(7.36)	(6.73)	(6.95)	(6.95)	(7.13)	(6.23)				
	284	309	245	273	271	247	255	255	262	229				
2003	(2.36)	(2.36)	(2.33)	(2.39)	(2.46)	(2.39)	(2.15)	(2.15)	(2.20)	(2.29)	(2.26)	(2.37)	(2.47)	
	93	93	92	94	97	94	85	85	87	90	89	93	97	
2004	(2.67)	(2.83)	(3.02)	(3.16)	(3.00)	(2.86)	(2.36)	(2.36)	(2.25)	(2.14)	(2.06)	(1.99)	(2.00)	
	105	112	119	125	118	113	93	93	89	84	81	78	79	
2005	(2.00)	(2.00)	(2.14)	(2.08)	(2.08)	(2.22)	(2.37)	(2.37)	(2.15)	(2.04)	(2.02)	(1.93)	(2.02)	
	79	79	84	82	82	87	93	93	85	80	80	76	80	
2006	(2.13)	(2.23)	(2.24)	(2.37)	(2.45)	(2.38)	(2.44)	(2.44)	(2.30)	(2.42)	(3.03)	(3.56)	(3.70)	
	84	88	88	93	97	94	96	96	91	95	119	140	146	
2007	(3.91)	(4.11)	(4.02)	(3.62)	(3.70)	(3.81)	(3.26)	(3.26)	(3.31)	(3.51)	(3.69)	(3.69)	(3.86)	
	154	162	158	142	146	150	128	128	130	138	145	145	152	
2008	(5.08)	(5.01)	(5.56)	(6.06)	(5.91)	(7.33)	(6.47)	(6.47)	(5.30)	(5.62)	(3.88)	(3.86)	(3.75)	
	200	203	215	239	236	288	255	255	209	221	153	152	148	
2009	(3.65)	(3.63)	(3.92)	(3.94)	(4.17)	(4.06)	(3.30)	(3.30)	(3.19)	(3.47)	(3.73)	(3.91)	(4.08)	
	144	143	154	155	164	160	130	130	126	136	147	154	160	
2010	(3.72)	(3.62)	(3.63)	(3.64)	(3.63)	(3.54)	(3.92)	(3.92)	(4.12)	(4.95)	(5.63)	(5.56)	(5.84)	
	146	142	143	143	143	139	154	154	162	195	222	219	230	
2011	(6.49)	(6.91)	(6.36)	(7.42)	(6.97)	(7.02)	(7.01)	(7.01)	(7.07)	(6.40)				
	255	272	250	292	275	276	276	276	278	252				

(注) 1. 小麦は、シカゴ相場による月央の終値である(2011年10月分は10月14日)。  
2. とうもろこしはシカゴ相場による月平均価格である。

輸入食糧小麦の入札結果(港湾諸経費を除く)の概要

(単位：トン、円/ドル当たり)

入札月および積月		平成22年12月入札分 (積月：2月積み)			平成23年1月及び2月入札分 (積月：3月積み)			平成23年2月入札分 (積月：4月積み)			平成23年3月入札分 (積月：5月積み)			平成23年4月入札分 (積月：6月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格
アメリカ	WW	77,443	29,266	30,729	57,394	29,875	31,369	75,550	30,370	31,889	71,587	29,833	31,325	79,365	30,545	32,072
	SH	100,893	34,516	36,242	53,793	33,782	35,471	74,987	36,385	38,204	47,837	34,185	35,894	88,101	35,066	36,819
	DNS	171,845	41,567	43,645	123,231	40,717	42,753	160,422	46,188	48,497	139,439	43,671	45,855	137,963	44,141	46,348
	小計	350,181	36,815	38,656	234,418	36,471	38,295	310,959	39,981	41,980	258,863	38,091	39,996	305,429	37,990	39,890
カナダ	1CW	103,743	43,124	45,280	71,286	41,875	43,989	83,023	43,415	45,586	63,695	39,742	41,729	86,348	43,400	45,570
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	103,743	43,124	45,280	71,286	41,875	43,989	83,023	43,415	45,586	63,695	39,742	41,729	86,348	43,400	45,570
オーストラリア	ASW	136,106	35,656	37,439	61,603	35,826	37,617	70,980	38,005	39,905	77,865	36,348	38,165	92,453	39,805	41,795
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	136,106	35,656	37,439	61,603	35,826	37,617	70,980	38,005	39,905	77,865	36,348	38,165	92,453	39,805	41,795
	小計	590,030	37,657	39,540	367,307	37,412	39,283	464,962	40,293	42,308	400,423	38,015	39,916	484,230	39,301	41,266

入札月および積月		平成23年5月入札分 (積月：7月積み)			平成23年6月入札分 (積月：8月積み)			平成23年7月入札分 (積月：9月積み)			平成23年8月入札分 (積月：10月積み)			平成23年9月入札分 (積月：11月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格
アメリカ	WW	82,058	30,069	31,572	84,605	27,711	29,097	74,084	25,390	26,660	68,208	25,482	26,756	50,115	24,996	26,246
	SH	75,576	35,339	37,106	61,383	32,707	34,342	59,719	28,463	29,886	64,764	29,805	31,295	57,568	29,896	31,391
	DNS	151,497	45,639	47,921	177,206	44,000	46,200	114,453	36,336	38,153	75,336	34,690	36,425	66,944	34,717	36,453
	小計	309,131	38,988	40,937	323,194	37,591	39,471	248,256	31,176	32,735	208,308	30,156	31,664	174,627	30,338	31,855
カナダ	1CW	84,310	44,907	47,152	87,443	40,980	43,029	72,029	37,010	38,861	68,309	35,578	37,357	63,356	35,609	37,389
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	84,310	44,907	47,152	87,443	40,980	43,029	72,029	37,010	38,861	68,309	35,578	37,357	63,356	35,609	37,389
オーストラリア	ASW	82,432	40,920	42,966	112,719	36,522	38,348	74,984	37,186	39,045	69,003	32,546	34,173	53,938	29,980	31,479
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	82,432	40,920	42,966	112,719	36,522	38,348	74,984	37,186	39,045	69,003	32,546	34,173	53,938	29,980	31,479
	小計	475,873	40,371	42,390	523,356	37,927	39,823	395,269	33,379	35,048	345,620	31,705	33,290	291,921	31,416	32,987

(注) 上表の詳細は、農林水産省ホームページ「申請・お問い合わせ」[http://www.maff.go.jp/f/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html]、「調達・入札」の「調達情報・公表事項」を参照し、次に「調達・入札」の「調達情報・公表事項」を参照して、「契約に係る情報の公表」を参照し、「食料安定供給特別会計」を検索し(アドレス[http://www.maff.go.jp/f/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html])、「米管理動定・業務動定」を参照し、「一般競争入札・指名競争入札(物品役務等)」を検索して輸入小麦に該当する箇所をご覧ください。  
(資料：農林水産省総合食料局食糧貿易課)

## 平成23年産 小麦の作付面積及び収穫量(都府県)(抜粋)

—小麦の収穫量は、前年産に比べて10%増加—

### 【調査結果の概要】

#### 小麦の作付面積及び収穫量

##### 1 作付面積

小麦は9万2,300haで、前年産に比べて1,700ha(2%)増加した。

##### 2 収穫量

小麦は24万5,000tで、前年産に比べて2万3,100t(10%)増加した。

### 【調査結果】

#### 小麦の作付面積及び収穫量

##### (1) 作付面積(子実用)

小麦の作付面積は9万2,300haで、前年産に比べて1,700ha(2%)増加した。

これは、東海、九州地域等において農業者戸別所得補償制度の本格実施により作付けが増加したためである。

##### (2) 10a当たり収量

10a当たり収量は265kgで、春先の低温や5月中下旬の降雨等の影響による生育の抑制等があったものの、作柄の悪かった前年産に比べて8%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は82%となった。

##### (3) 収穫量

都府県の収穫量は24万5,000tで、前年産に比べて2万3,100t(10%)増加した。

これは、作付面積の増加に加え、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

図1 小麦の作付面積及び収穫量  
(都府県・子実用)の推移

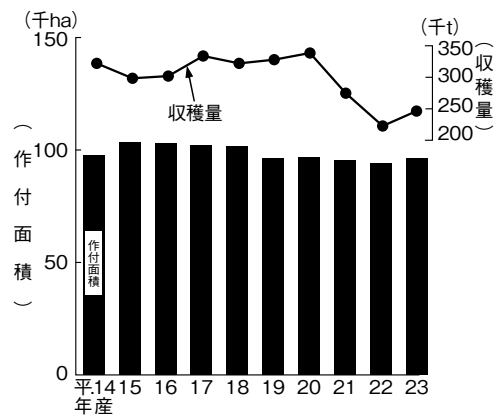


表1 小麦の作付面積及び収穫量(都府県・子実用)

(単位/作付面積：ha 10a当たり収量：kg 収穫量：t)

区 分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10a当 たり 収 量		収 穫 量		10a当 たり 平均 収量	10a当 たり 平均 収量
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比
小麦	92,300	265	245,000	1,700	102	108	23,100	110	82	322	

【統計表】

1 平成23年産小麦の用途別作付面積

(1) 田畑計

(単位：ha)

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	都府県 (農業地域)	93,600	1,800	92,300
東北	8,340	△ 140	8,110	△ 230
北陸	×	×	×	×
関東・東山	22,700	△ 100	21,700	△ 200
東海	15,100	500	15,000	500
近畿	9,350	240	9,350	240

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	中国	1,480	60	1,470
四国	1,890	120	1,890	120
九州	34,600	1,200	34,600	1,200
沖縄	8	0	8	0

(2) 田

(単位：ha)

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	都府県 (農業地域)	87,400	1,400	87,200
東北	7,650	△ 190	7,540	△ 240
北陸	×	×	×	×
関東・東山	18,200	△ 300	18,100	△ 300
東海	14,900	400	14,900	400
近畿	9,350	250	9,350	250

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	中国	1,440	50	1,430
四国	1,840	110	1,840	110
九州	34,000	1,100	34,000	1,100
沖縄	-	-	-	-

(3) 畑

(単位：ha)

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	都府県 (農業地域)	6,140	260	5,060
東北	693	47	564	3
北陸	×	×	×	×
関東・東山	4,510	130	3,590	130
東海	159	65	152	59
近畿	3	△ 2	3	△ 2

農業地域 都道府県	小		麦 子実用	
	作付面積	対前 年差	作付面積	対前 年差
	中国	34	0	32
四国	59	17	59	18
九州	568	39	555	39
沖縄	8	0	8	0

## 2 平成23年産小麦の作付面積及び収穫量(都府県・子実用)

(単位/作付面積：ha 10a当たり収量：kg 収穫量：t)

農業地域 ・ 都道府県	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a当たり 平均収量 対	10a当たり 平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
都府県 (農業地域)	92,300	265	245,000	1,700	102	108	23,100	110	82	322
東北	8,110	179	14,500	△ 230	97	98	△ 800	95	91	197
北陸	×	155	×	×	×	100	×	×	97	159
関東・東山	21,700	310	67,200	△ 200	99	111	6,200	110	94	331
東海	15,000	269	40,400	500	103	127	9,800	132	96	280
近畿	9,350	206	19,300	240	103	100	600	103	80	258
中国	1,470	253	3,720	60	104	126	890	131	90	281
四国	1,890	294	5,560	120	107	120	1,250	129	96	307
九州	34,600	272	94,100	1,200	104	102	5,200	106	70	386
沖縄	8	218	17	0	100	141	5	142	137	159

注：都府県及び全国農業地域別(以下、地域別という。)の10a当たり平均収量は、各都府県の10a当たり平均収量に当年の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年の地域別作付面積で除して算出している(以下の各統計表において同じ。)

## —「ソフト & ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたく考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

## ★ 編集後記

- 日本には‘ぎなた読み’という言葉遊びがある。意識的に読み方を違えることであるが、よく使う例が<ここではきものをぬいでください>である。何処に句読点を入れるかで意味が変わる。しかし、事実を伝える情報はそれでは困る。事実を‘ぎなた読み’で変えるようなことは無いが、受けて側が例えば‘ぎなた読み’のように解釈していたらどうするか。  
放射能汚染に関する情報が盛んにニュースで流れるが、発生から7ヶ月余が過ぎて風評被害の類を耳にするのは何故か。何が事実で、どの様に対応すべきかハッキリした情報が伝わっていないからではないか。
- BSE、鳥インフルエンザ。スマトラ沖地震・インド洋津波。ヨーロッパ猛暑・大洪水。中国四川省地震。ニュージーランド地震。フィリピン・ブルサン火山噴火。新燃岳噴火。東日本大震災。タイ大洪水。近年、世界中で自然災害等が起きている。そしてTVの画面に映し出される。異状である、としか言いようが無い。科学技術の進歩により世界中のどんな出来事も、家庭に居てニュースとして知ることができる時代である。が、ほんの何世紀か前まで、知ることが無かっただけのことかもしれない。東日本大震災級の地震は1000年に一度と言われるが、地球規模ではもっと短期間に起きていることであったかも知れない。次は身近に何が起こるのか予想するのは恐ろしい気がする。
- 科学の力で知ることができる情報と、人が事実に基づいて伝えなければならない情報とがある。何処まで正確に事実を伝えているか。また、出して側も誤解を受けないように提供しているか。身近な情報に基づき、必要な対応するのに支障が起きないようにしなければならないと思う。

製粉振興 10月号 (No.538)

発行／平成23年10月20日

編集発行人／落合通人

発行所／財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号  
製粉会館2階

Tel.(03) 3666-2712(代表)

<http://www.seifun.or.jp>

Fax.(03) 3667-1883

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載